

福島少將題字

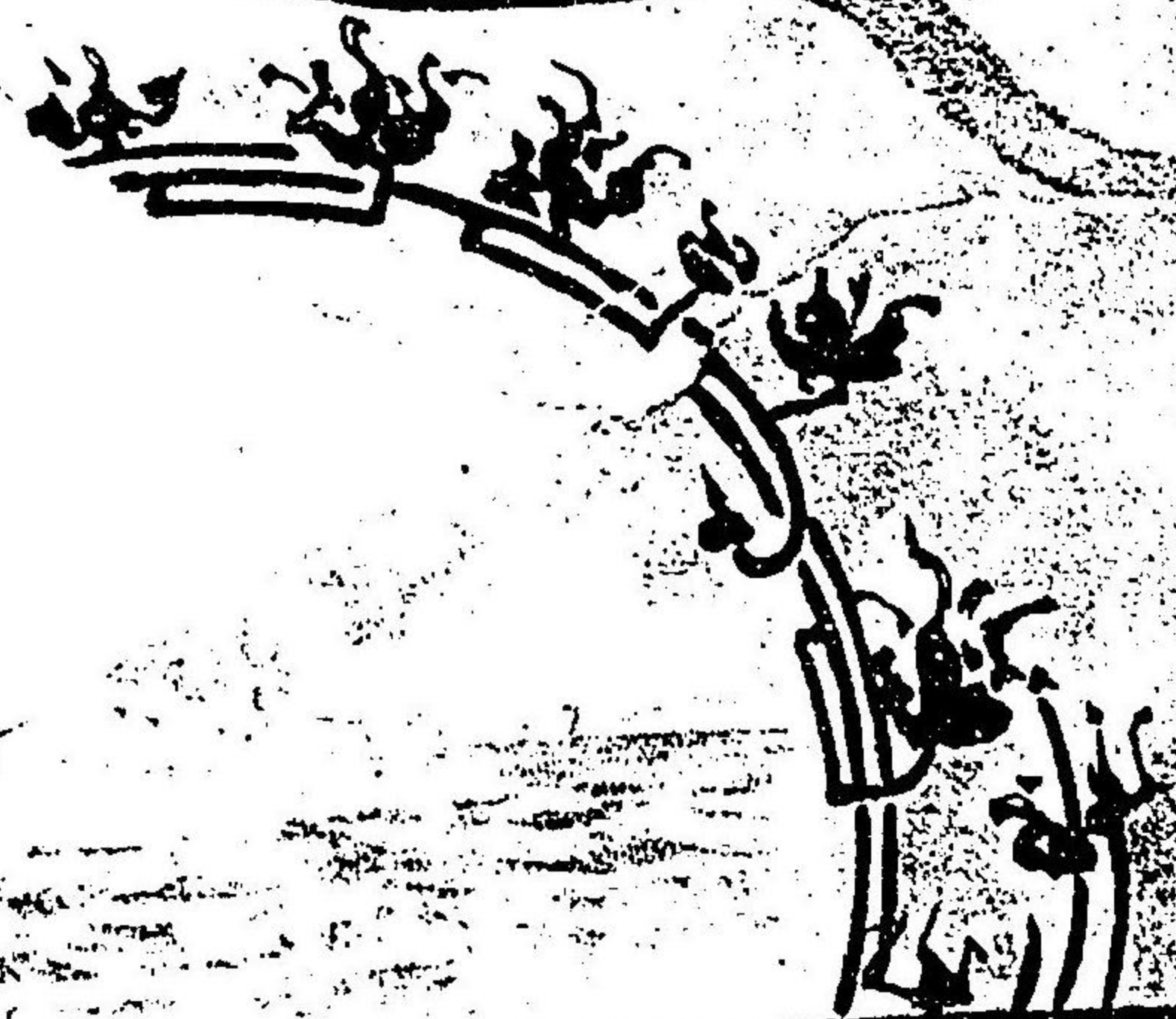
96

43

從軍記者桑村常之丞著

清韓露渡航案内

東京小川尚榮堂



96-439

福島少將題

奇蹟
ス
ラ
ク

明治
87. 0. 13
内交

緒言

一 征露の大詔一たび煥發せられてより國民皆爭ふて露清韓三國の地圖を購求し戦争は勿論貿易商略等を考察せざるものなし地圖は國土の地形位置を知るに必要なりと雖も僅かに國土の地形より山河都邑の位置等を知り得るに過ぎずして隔靴搔痒の嘆を免れず是に於て三國の地誌を略述し地圖を披く者の案内となしたり是れ目下の形勢に於て緊要なればなり

一 本書は兵要と商業とを目的とせしと雖も素より小冊子の能く悉くす所にあらざるを以て比較的韓國を詳かにし清國は重に直隸山東の二省東三省の地方に就きて成るべく詳細に之を記し露

國は西比利亞地方を詳記し他は省略に従へり然れども清國に於ては日今必要を感じる上海及び楊子江沿岸地方は稍々詳に之を記述せり

一本書は單に地圖の解説に止らず三國の人情風俗より交通機關は勿論貨幣度量衡に至るまで之れを略記せり是れ有望の人士の雄飛する導火線たらんことを希圖すればなり

一本書卷頭の詩歌は西比利亞を跋涉して露人の膽を寒からしめたる福嶋少將自作眞筆に係る

清韓露渡航案内

清韓露渡航案内

朝鮮の部

朝鮮は亞細亞大陸諸國の中最も我が邦に近き半島狀の國にして對馬より遙かに其の南端を望むべし(面積八千二百方里、人口千五十二万八千九百餘)内地は山多く平野少く只北部沿海の地にあるのみ國の北方に白頭山あり一名長白山と云ふ之を國中第一の高山とす山の東に豆滿江の大河を流し其西へ鴨綠江の大江を擁す共に國中著名の大江にして滿州及び支那との分界の地とす
氣候は寒暑共に酷しく北地の諸川は冬時氷結することありれども三南地方は總て温和なり三南とは忠清、全羅、慶尙の

清韓露渡航案内

三道を稱して三南といふ全國を平安、咸鏡、黃海、京畿、江原、忠清、全羅、慶尙の八道に分てり
風俗人種も略ぼ支那に似たり南部中央の人は性質寛にし
て鈍なり北邊に住む者は頗る強悍なり
産物の首たるものは砂金、人参、米、虎皮、牛等なり

○京城

朝鮮の首府にして一に韓陽と稱す市街は高十尺乃至二十尺の石垣を以て周圍を繞らし城中城外に分つ城内の人口約二十万本邦居留民約五千諸官衙皆此所におり王城は新大闕にあり南門を以て正門とす在留本邦人の居留地は倭將臺と稱して眺望を以て名あり京城南山の中腹は文祿の

清韓露渡航案内

役増田長盛の築きし所なり城内中郡塔洞に蠟石の塔あり此れは今を距る七百年前清帝の賜りし物なりといふ旅館として巴城館、浦尾、川嶋等あり又城外に四の城壘あり南漢山、北漢山、松都、江華嶋といふ南漢山北漢山は共に京城守衛の城壘なり
江華嶋は漢陽の西にあり嶋は南北百餘里東西五十里東北は江をめぐらし西南海に臨む京畿道中の一大嶋なり嶋に聳ゆる麻尼山下に江華府あり府は險津と號し左右城郭を設けずろの要害たる知るべし府は明治九年我日本と條約を締盟したるところなり
江華嶋の西北に喬東嶋あり嶋の南は大海に臨む江華喬東の二嶋は土地瀉にして旱災屢ば至る故に人民は魚鹽を以

清韓露渡航案内

て生業とす
京城より西に去ること五里にして沙峴及び楡峴の險あり
又西四十里を行けば碧蹄嶺あり文祿の役小早川隆景が明
軍を鏖殺したる所なり
又西に行く四十里にして臨津渡あり津を渡り長湍府より
西行四十里を開城府とす

○開城府

開城府即ち松都は松岳山に據りて規模頗る大なり山の南
に二山あり一を龍首といひ一を進鳳といふ兩山の間を大
興洞とす古へ山城を此に築く眞に天險と稱す府の南は豊
總府にして東は永平縣なり

清韓露渡航案内

臨津渡の東に連川麻田の二縣あり其北に朔寧郡あり共に
江に臨み勝景の地多く又土地頗る肥沃なり
産物は銀鐵齒席林檎柿等にして牛皮牛骨を出すこと夥し
又開城府より黃州に至るの間は青石及び洞仙の險あり洞
仙嶺は高さ七八百尺即ち西路第一の險阻と稱せらる黃州
府は東山を負ひ西野に臨み南鐵錦溪を帯び城壁の外空濠
を鑿つ朝鮮城廓中空濠あるは只此府のみ戸數三千戸又大
要害を見ず
黃州より平壤に至る間概して平野長郊にして只時に小起
伏あるのみ又鎮南浦より水路二十七湮大同江の便を借り
て至るを得べし

○平壤府

内案航渡露韓清

平壤府は沃野十里の中にあり山を拓きて城を築き東一帯大江を控へ三面皆塙壁をめぐらし東西に狭く南北に長く又北方高くして南方卑く實に形勝要害の地なり内城門中城門一外城東城の五區に分ち戸數幾と二万(城内三千七百戸瓦屋多く城外一万五千戸茅屋多し賣買の盛んなる慶尙道の大丘に亞ぎ實に關西の大都會なり)此の地皆江水を飲料とし井泉の數僅に三十餘個に過ぎず
平壤は箕子創基の地にして衛氏高氏も亦爰に都し今に至て猶一國の大鎮たり箕子の墓は城外兔山にありその井田の遺制は今尚ほ存して外城にあり箕子の井箕子の宮趾共

内案航渡露韓清

に亦その中にあり

朝鮮國は上古唐堯の世に當り王儉といふ者自ら檀君と稱して君長たりしが其子孫一千有餘年にして箕子出で本國に封せられ平壤に都し始めて朝鮮の國號明かとなれり其後裔箕準に至り秦人衛滿の亂に亡び馬韓、辰韓、辨韓となる世に之を三韓といふ此時我神功皇后の親征あり後新羅、高麗、百濟の三國となりしが臣屬王氏の爲めに統一せられ更に高句麗と稱す後又季氏代立せり之を當今朝鮮國の大祖とす

大同江は源を平安道の孟山徳川より發し黄海平安兩道の間を貫流し曲折迂回三和に至りて海に入るこの江平壤城の下は洲礁多くその沿岸は斷崖削立殆んど攀援すべから

清韓露渡航案内

八
す只上流綾羅嶋の下は水浅く礁稀れにて渉るべし下りて
平壤より約三千里水漸く汚濁となれども水災少なしとい
ふ
成川府は平壤の東にあり西に沛流江(舟路平壤に通ず)あり
東に劔鶴山あり南は野に接して尙ほ四方遠く山を繞らし
頗る險要の地たり戸數凡そ五百戸一都會をなせり而して
所謂降仙樓は周回三百間輪奐壯麗寔に入道樓觀の第一と
す
平壤の北方一里に牡丹臺あり大洞江に臨み又日清戦役の
古戦場なり船橋里も亦平壤の附近にありて日清戦役の激
戦ありしところ我が將校以下百四十名戦死の墳墓あり
又成川より殷山竹川を経て寧邊に至るその間に小嶺な
きにあらざれども平野彌望往々數里に亘り道路亦概ね平
坦殆んど車を行るべく甚だ險要なし

寧邊府

清韓露渡航案内

寧邊府は一に鐵瓮城と稱し峯巒四圍自然の城障を爲し其
狀恰も摺鉢を伏せたるが如く外よりするときは仰ぎて登
らざるを得ず内よりするときは驅て降るべくされば古來
平安一道唯是れを以て保障と稱したり蓋し鐵瓮の字は能
くこの城の形勢を悉くすものと謂つべし
加之北東には雲臺天耳諸山のめぐれるあり南西には所申、
化翁二水の流るゝあり(舟路安州に通ず)而して清北より清
川江以北を清北と云ひ以南を清南といふ)清南に行くもの

清韓露渡航案内

皆多く此の地に由るは畢竟地理の然らしむる處たり一城
戸數幾と千戸商賈半に過ぎ頗る殷富の色あり
府の北に劔山嶺あり嶺を踰て江男府ありこの地絶險にし
て樹木天に參り多く人參を産す江男の參は國中第一とす
寧邊より金鑛に富める雲山を経て委曲鎮に至る間には時
に小越伏あれども概ね平郊長野にして太だしき險隘の處
なし又委曲鎮より以北昌城に至る路常に山谷の間に通じ
宛も舟底にありて天門を管見するの思ひありその間恃
鎮、於自里、烏許、屏、綏、頂、自作の一鎮四嶺あり而して烏許、屏、最
も峻急にして於自里亦最も幽邃なり寧邊を距る六里にし
て安州府あり
安州府は周回凡そ一里半北は清川江に臨み南は丘陵に據

十

清韓露渡航案内

りて墻壁をめぐらし内城二城に分つ即ち西北を内城とし
廣さ三分の一に居り街路凹凸戸數僅かに二三百戸その城
門は新南門を大なりとす外城は東南に位し廣さ三分の二
を占め街衢整正殆んど碁局の如し戸數幾と千戸大半瓦屋
なりその城門は望東、平安、信義、玄武の四門を大且重要なも
のとす内城の東北隅に營門あり節度使の本營規模儼とし
て鎮營の威容あり玄武門の西には百祥樓あり輪奐の美を
極む又樓の北に七佛寺あり高勾麗七僧の遺蹟にして今尙
ほ楚聲を絶たず
この地は西來の要路に當り陵に據り江に枕み嬰りて守る
べく其の之を攻むるや西よりするは殊に固く南よりする
も亦易きにあらざるなり

十一

清韓露渡航案内

安州より義州に至るその間凡そ三十四里中に二大津三要
害あり二大津とは即ち一を大定江とす博川、嘉山の間にあ
り他の一を清川江とす幅五丁餘水幅二丁弱深さ二尋に過
ぎず安州城下にあり又三要害は西林鎮
(鐵山)東林鎮(宜川)及び曉星嶺(嘉山)即ち是れなり

○義州府

義州府は北岡陵に據り南鴨綠江岸に臨み東西長く(約そ十
町)南北短く(約そ六町)北に縮り南に延びその形恰も箕の如
し四面墻壁をめぐらし五門を開く之を内邑とす
城内人家櫛比し瓦屋半を過ぎ頗る繁華の氣象あり然れど
も城は元と丘上に位するを以て街路は南門街を除けば他

清韓露渡航案内

は殆んど傾斜して平坦の處なし
外邑は城の東南を圍みて廣さ幾んど内城三分の二に居る而
も戸數は却りて半に及ばず街路は平坦と斜坡相半し内城
の如く高低甚しからざるも陌阡列次なく且つ茅屋多し唯
車馬行旅の來集は内邑の方却りて外邑の多きに如かき一
市の戸數凡そ三千五百戸あり
此の府從來柵門大市とて年々三回期を定めて開市し胡地
(滿州)と互市せしめ平時は之を禁せり故に開市間は殊に雜
沓を極めしも今はその禁稍く弛みしといふ城門は南門を
以て最も壯觀とす門は層樓にして大書額して海東第一關
と題せり此の府は實に北京路の關鎖たり内城の丘の半腹
に於て曾て清使の旅館たりし義順館の一棟あり市家に屹

清韓露渡航案内

立せり征韓の役韓王走りて明の援兵を乞ひたる地なり鴨
綠江は國中第一の大江なり水源を白頭山に發しこの地に
て二大水東北より分派流注して三江となれども水潦漲溢
する毎に合して一江となり海に入る水中に威化嶋あり

昌城府

昌城府は義州府の東北に當りて亦鴨綠江に枕むこの二府
の間は路或は江岸に沿ひ或は山谷に入り極めて險難なり
府は丘陵三面を圍み丘上亦墻壁を環らし唯り西南の一面
稍開き直に江に臨めり其形恰も竈を地上に置くが如し城
門は内外五口あり即ち内門三(鎮東樓、鳴劍樓、長靜南門)外門
二(昌西門、挽河樓)即ち外南門とす治は城の中央丘上に在り

清韓露渡航案内

て一府を俯瞰し又遙かに滿州の地を望むべし市街は外南
門の通路を除けば狹隘なる巷衢のみ要するに此の地の形
勢太た要固なく攻むべくして守るべからず而も江岸は一
葦帶水を隔て、清韓從來互に肅然境域を防守し遂に濫り
に民の舟を造るを禁するに至れり
鴨綠江邊にて土人の用ひる刳木船は人民の之を造るを禁
せず此の舟は一幹を以て造るもあり二幹を合せて造るも
あり小なるは長さ二間半幅二尺許大なるは長さ三四間幅
又之に稱ふその製は甚だ簡單にして之れを刳める狀宛も
槳に似たり

元山津

清韓露渡航案内

元山津は德源灣(歐人は之を普魯敦灣と稱す)に臨み恰も釜山と露領浦塩斯德港との中央に位せり地勢東南は麻葛浦を以て塞ぎ西南には德源安邊の諸山あり市街は灣の南岸に在りて戸數凡そ二千戸人口凡そ四万餘本邦居留地は長徳山の前にして赤田川を隔て、元山津と相望む府に完山村あり浦民聚居し魚採を以て業とす又海邊には商船常に聚集し魚採、細布、輕鬘、貂參、檳榔の材皆此地より買ふ故に江原黃海平安京畿諸道の商賈日夜集合して百貨輻輳し實に繁華の地とす
氣候は我が東京に比すれば寒氣の去來共に一ヶ月の遲速あり本港より德源府へ一里廿丁浦塩斯德へ海路三百四十哩又我が馬關へ三百八十哩長崎へ四百六十哩の距離あり

清韓露渡航案内

日清戦争のとき平壤包圍攻撃に際し我が元山支隊の上陸せし地を以て有名なり
元山津より京城に出る其の間に安邊府あり鐵嶺の北とす府の西北に太祖の建立に係る釋王寺ありこの地より江原の境に至るまで時に岡陵の起伏するあるも概して平原長野なり是より鐵嶺を登り以南京畿に入り竹雪嶺を超ゆるの間は眞に亂山深峽攻守共に大だ困難なり嶺より以往は復た平坦なり
又元山津より陽徳を経て成川及び平壤に出るの道は馬息九龍の險あり凡そ此の間山勢雄峻路極めて艱險狹隘なり更に元山より北豆滿江の沿岸露境及び滿州吉林省に至るの道は一條の大路坤より艮に至り東方は日本海に面し西

清韓露渡航案内

方は層嶺を負ひその間に咸興府あり
豆満江は満州と本道との限界を流る國內第二の大河にし
て万里長城の東よりし満州及び道内の法丹魚淵等の小河
を併せ竟に東日本海に入る

○咸興府

咸興府は戸數凡そ一万二千戸咸鏡道中第一の都城とす城
は君子河に臨み万歲橋を架す城の南門に樂民樓あり平壤
の鍊光亭と相甲乙し全く一邑の勝を觀望す原野曠逸とし
て海を受け風氣強烈なり
原野中に大祖李氏微時の古宅あり今に至りて畫像をその中
に置き官をして之れを守護せしめ時を以て祭を致す

清韓露渡航案内

咸興府以北は山川險阻にして風俗勁悍土寒く地瘠せ穀類
に粟麥あれども秔稻少なく又綿絮なし土人は豹皮を衣て
冬を禦く山に貂參多し臨海には魚鹽に富む然れども海水
は清悍にして下に岩石多し
咸興府に亞ぐを北靑戸數凡そ千三百戸鏡城戸數凡そ二百
五十戸とす其他會寧、鏡城、穩城、慶源、慶興等あり又端川郡の
利原縣の地は砂金及び銀を産し甲山府は砂金銅を出す又
虎豹皮を出すこと尤も多しとす
鏡城より慶源に至る沿岸十六里の間は清人常に往來し車
馬の運搬頗る便なり而して慶興より慶源を経て鏡城に至
るの間は地勢概ね平坦にして險隘ならず咸鏡北道の南端
韓國東海岸に城津あり新開港地にして將來我邦の爲めに

清韓露渡航案内

大に望を屬すべき所とす

○釜山

釜山は慶尙道の東南に在て我對馬嶋と相對す航路我二十
余りに過ぎず遙かにその南端を望むべし釜山は明治九年
公然開港せし處なれども實は今より四百四十餘年前即ち
足利時代より早く業に我が邦人の貿易せし港にして征韓
役には我が軍の上陸地として史上にその名高し故に他の
開港場と大にその趣を異にし宛も日本殖民地の觀あり市
街の民家は大抵草廬にして瓦居少なし本邦の居留地は土
人の住居と隔たりて頗る清潔なり
居留地中に一山あり龍首山といふ上に琴平辨天の兩社あ

清韓露渡航案内

り龍首山は東岸に峙ち龍尾山は西に聳ゆ首尾の間商店市
を爲し且つ領事館警察署學校病院より諸問屋酒樓遊廓に
至るまで殆んどあらゆるものなく爲めに邦人の始めて此
に到る者も又身の他國に在るを覺ぬすといふ龍首山は公
園にして加藤清正の墳墓あり
釜山を距る北西三里餘にして東萊府あり府使兼釜山監理
の居城なり戸數凡そ千五百戸あり大丘は東萊を距る三里
慶尙道觀察使の居城にして戸數凡そ三千餘人烟稠密百貨
輻輳實に本道の都會なり

○仁川

仁川は釜山より海上四百三十一哩韓國西岸の要港にして

清韓露渡航案内

京城との間汽車の便あり恰も我が東京と横濱とに於けるが如し灣内内外二あり外方は大艦を容るべく内方は尋常の帆船汽船を容るべし灣口には大部小部永宗等の諸嶋あり又北は月尾嶋海峡を以て漢口に通す日露戦役我艦が敵艦二隻を撃沈したる處なりこの地は元と一漁村たりしが今や漸く市街をなしその本邦の居留地は釜山の戸數多きに及ばざるも又頗る殷賑なり仁川より京城に至る道路は平坦にしてその距離九里中間に五柳洞の一小驛あり更に進みて京城に近ければ漢江の津渡あり麻浦と云ふ是れ往昔加藤清正の涕泣せし處なり又仁川より水路京城に至らんとする者は汽船に乗じ漢江を

清韓露渡航案内

沂り龍山若しくは三湖に上陸するを得べし

○朝鮮八道の位置及面積

○京畿道

東北は江原道に境し北一半は黄海道に接し西は海に向ひ南は忠清道に隣りす道内に四州九府八郡十五縣あり

○忠清道

北は京畿道に接し南は全羅道に界し西は海に臨み東は慶尙道に隣る本道に四州一府十一郡三十八縣あり

○全羅道

東は慶尙道に界し北は忠清道に接し土地肥饒西南海に濱し多くの嶋嶼を保つ古へ百濟の地にして魚鹽纒縹絲苧楮

清韓露渡航案内

竹木橋袖等の利多し本道に五州五府十二郡三十五縣あり

○慶尙道

北は江原道に界し西忠清全羅の二道に接し東南海に面し地理最も佳なり四州十一府十三郡四十縣あり

○江原道

京畿忠清黃海三道の東に在て東北日本海に面し咸鏡道を北の境とし南は慶尙道と土壤を接し漸に東に開く南北千里東西は百里に足らず地勢局促たり本道に一州六府七郡十二縣あり

○咸鏡道

西北は露領の滿州と豆滿江を以て界を限り西南は平安道に背き東は日本海に面し南一隅を江原道に交ゆ本道に一

清韓露渡航案内

州十五府四郡二縣あり

○平安道

東は咸鏡道に山嶺を以て界を接し西南は黃海に臨み東南は黃海道に隣し北は支那と鴨綠江を以て界す道内に四州八府十五郡十五縣あり

○黃海道

北は平安道に界し東は京畿江原の二道に隣り西南は海に突出し一道の幅員は他道に比すれば最も狭少なり道内に二州五府八郡十縣あり

朝鮮は八道に分ち各道の中に地積の廣狹人口の多少に依り州縣郡縣をなし之を官といふ其數全國を合して三百三十二而して各州以下各縣に至るまで之れを

清韓露渡航案內

細別して面となす面は我國の區に均しといふ
 朝鮮の一里は我が三丁四十間に當る即ち朝鮮の十里
 を以て我一里と見做さば敢て大差なかるべし

○内地旅行免狀

我が帝國の臣民は各港間里程内に往來するは自由なれど
 も此の以外に出んとするには其の目的の遊歴なるや或は
 行商なるやを明記して所轄帝國領事館へ預め届出るの必
 要あり然る時は該領事館より該地方官の認諾したる路照
 なるものを交附せらる是れ即ち我が旅行券に均しきもの
 なり其寫し左の如し

清韓露渡航案內

館印

○ ○ 號

大日本國駐劄 ○ ○ 港領事 ○ ○ ○ ○ 爲發給路照
 事今有本國寄留 ○ ○ ○ 港士民人 ○ ○ ○ 稟請欲
 往 ○ ○ ○ ○ 等處(遊歴通商爲此合給路照以便驗
 照旅行無阻途中如遇緩急應請沿路各該地方官吏
 煩爲照料保護須至路照者

右 照 給

日本國寄留 ○ ○ 港民士人 ○ ○ ○ ○ 收執

明治 年

月 日 行

領事之印

清韓露渡航案内

○貿易商の心得

貿易商人の第一に心得置くべきは朝鮮海關なりその規則は明治二十年九月六日統理交渉事務衙門より發布せられたり而して先づ知了すべきは臨時開關と休暇日なり即ち左の如し

海關の執務時間は公休日の外は日出より日没に至るの間なり此の制限の外は臨時となす

臨時開關手数料は

- 金 五 圓 日没より夜の十二時迄
- 金 拾 圓 日没より夜の十二時後に至る迄
- 金 貳拾圓 日曜日若しくは公休日の日出より

清韓露渡航案内

公休日

- 金 拾 圓
- 金 貳拾圓

日没に至る迄
 日曜日若しくは公休日の日没より
 夜の十二時迄
 日曜日若しくは公休日の日没より
 夜の十二時後に至る

陽曆毎日曜日

陽曆十二月二十五日より翌年一月一日迄

陰曆正月一日二日三日及び十五日

陰曆五月五日

陰曆七月二十五日

陰曆八月十五日

清韓露渡航案内

陰曆十二月晦日
輸出入免稅並に禁制品

輸入免稅品

貨幣 金銀地金 旅行行李の具 新聞紙 貨物見本

(相當の額數) 書籍 地圖 海圖 廣告紙類 招牌

植物類 修葺勸業の雛形類 農具 醫術用器具 尺

度量 寒暖計 晴雨儀 液器 針盤 其他學術用器並其使

用品 活字新古の別なく 消防器具 船用具(若し不

用のものを陸上して競賣するものは仍ほ定稅を徵

す) 包袋 諸蓆 苧蓆及繩類(貨物包裝に用ふべき)

輸入禁制品 鴉片(藥用鴉片を除く) 偽藥 擬造貨幣類 軍器類(防

身用の外) 淫猥私褻の畫圖肖像

輸出免稅品

貨幣 金銀地金及び砂金 植物類 各貨式樣 旅客

行李の具

輸出禁制品

紅蔘 日本商民は朝鮮政府の特許を得ざれば輸出す

るを許さず

朝鮮商民は一割五分の稅を納めて輸出す日清

兩國外の各國條約には不淮運載出口とあり

納稅は我が貿易規則第四十款の通り朝鮮の銅錢又は日本

銀貨を以てするも自由なり

各海關に借庫あり万一荷主不在等にて速かに物品を引取

清韓露渡航案内

清韓露渡航案内

り得ざるが如き時に便にす
各港間行里程 (遊歩規定なり)

- 仁川
- 東 京城東中浪浦
- 西北 坡州交河通津江華
- 南 南陽水原龍仁廣州
- 西南 永宗大阜小阜の各島
- 元山
- 北 永興
- 西 文川の終境
- 南 淮陽通川
- 釜山

清韓露渡航案内

- 東 南倉
- 西 昌原馬山浦三浪倉
- 南 天城嶋
- 北 彦陽

帝國日本領事管轄區

此の管轄區は尙ほ我が本邦に於ける司法管轄區と等しきものなり故に内地行商者等旅中の出來事より自然我が帝國領事に伺願等を要するものは此の管轄區域を心得ざるべからず

- 在釜帝國領事管轄區は
- 慶尙道 全羅道 各一圓
- 在元山帝國領事管轄區は

清韓露渡航案内

咸鏡道 江原道 各一圓
在仁川帝國領事管轄區は

忠清道 黃海道 平安道 各一圓並に 京畿道

西部

在京城帝國領事管轄區は

京畿道東部

通貨及度量衡

朝鮮國の通貨は二種ありて一を葉錢と云ひ他を當五錢と云ふ京畿黃海の二道及忠清(北部)江原の(西部)各半道は當五錢を通用し全羅慶尙咸鏡平安の四道及忠清(南部)江原(東部)の半道は當五錢を通用せしめて葉錢のみを通用す語を換へて言へば仁川京城は當五錢を用ひ釜山元山は當五錢は

清韓露渡航案内

一切通せず代ゆるに葉錢を通用するなり葉錢當五錢共に

韓錢と總稱す

葉錢とは一文錢なり一千文を以て一貫文とし相場は大概

十三四割乃至十七八割なり即ち一貫文は我が銀貨一圓三

四十錢乃至一圓七八十錢なり

當五錢とは五文錢なり二百文を以て一貫文とし相場は大

概五割五六分乃至六割なり即ち一貫文は我が銀貨五十五

六錢乃至六十錢なり

長途の旅行には多數の韓錢を要するが故に人脊牛馬に荷はしむを常とす然れども我が銀貨を携帶すれば到る所に交換し得べし又物産買集等専ら仕入れの爲めに内地を旅行するものは純金指環若くは腕環を携へ支出を要する毎

清韓露渡航案内

にその幾分を截切賣却して以て用を辨ずること清國內地
旅行と異なる所ろなしと云ふ但し紙幣は通用せざるなり
度量衡も亦た豫め辨まへざるべからず

- 周尺 我が曲尺の六寸四分 百六十三ミリメートル
- 針尺 我が鯨尺の一尺四寸 五百ミリメートル
- 綿尺 我が鯨尺の一尺 三百八十五ミリメートル
- 官尺 我が鯨尺の一尺三寸三分 四百七十五ミリメートル
- 鐵尺 我が曲尺の一尺 三百〇三ミリメートル
- 繩尺 我が曲尺の一尺一寸六分 三百七十七ミリメートル
- 綿布類 三十五尺を匹と云ひ五十匹を同と云ふ
- 斛を升と云ひ又は九と云ふ
- 升を刀又は盃と云ふ一升は我が三合五勺に當り十五

清韓露渡航案内

斗入りの一俵を一石とす京城升は我が一か一升三四
合に當り一石入り一俵は五斗二升五合入なり其の目
方凡を百三十五斤と云ふ
衡量は十六兩を一斤とし一兩を十錢とし以下分厘の
稱へあり又大稱は百斤中稱は甲三十斤乙七斤小稱甲
三斤乙一斤等の名目あり京城戶曹の烙印あるもの、
外は各々一様ならざるなり目方一兩は我が九匁二分
にて三十八グラム即ち英の一オンスト二分なり
周尺の六尺を一步と云ひ三百歩を以て一里とす即ち
一里は我が三丁十二間に當る
官尺の三尺を一尋或は一把と云ひ船舶大小を測るに
用ゆ

清韓露渡航案内

周尺の十尺を束と云ひ十束と負と云ひ百負を結といふ
 田地幅五十八尺長三十五尺即ち二千三十万方尺あり
 穀物収獲最も多きものを一等とし二十負三束に數ふ
 第二等は同地積を十七負三束第三等は十四負二束第
 四等は十一負二束第五等は八負一束第六等即ち最下
 等は五負一束に計算す
 附云ふ海關報告に用ゆる「ピクル」は百「カッチー」即ち百三十
 三斤と三分の一に當り六十「キログラム」四五三なり「カッ
 チー」は十六「テール」即ち一斤と三分の一に當り「テール」
 は「オンヌ」と三分の一に當る船積荷物の一噸は穀物の
 六石なり量目の一噸は二百七十貫四百七十五匁五分二

厘なり

○内地旅行問答

朝鮮内地の道路は如何

朝鮮内地旅行に付き最も困難なるは第一道路なり道
 路は一として修築せしものに非ず幅は平均六尺乃至
 九尺なり平坦と云ふ所るにて凸凹常なく其の岩石突
 出する所の嶺阪の如きは其の傾斜四十五度以上なる
 べく所々路傍に木柱上に奇形人像を彫刻せるものあ
 り是れ即ち里程標にして毎五里我が十六丁にして一
 標あり

言語は如何

内案航渡露韓清

旅行者が第二の困難は言語なり旅者自ら朝鮮語に通
せざれば不便最も多し日本人にして朝鎮語を能くす
るもの少なからざれども大抵自ら一事業を有するを
常とし何人の雇聘にも應ずべきもの少し旅者若し知
人あれば豫じめ一書を送りて通辨の雇方を依頼し置
くべし

旅舎は如何

旅舎は茅屋土床なり室内に便器を置くは當國一般の
風習なり故に臭氣鼻を衝くを常とす香水の携帯を必
要なりとす
官員の旅館には地方官より官房を給するの例なり是
れ亦た決して清潔に非ざれども市中の旅舎には遙か

内案航渡露韓清

飲食店は如何

に優れりといふ旅舎或は官房に至れば家人は種々周
旋すべし韓錢を以て相當の心付をなすべし
各地共飲食店はあれども座敷はなし皆土床にて立食
するの習慣なり故に守田製の萬福と稱する食品を携
ふこと頗る輕便なり一個を以て一食に代用すべく價
は僅か二錢なり

浴室は有りや

朝鮮各地に浴室を有する家は絶てなし故に旅中は河
流ある所にて身軀を洗ふことを心得ざるべからず
服装は和洋何れが可なりや

洋服を着するを宜しとす服装の美なると伴人を數多

清韓露渡航案内

食物の種類を問ふ

携ふるは當國高位高官の人の常なり故に形態を見て
輕蔑するの風あれば成るべく粗末ならざるものを用
ふべし
食物には牛、豚、雞、雞卵、野菜及び米麥は何地にもあり從
者にして料理を心得居らば頗る便利なり但し砂糖醬
油及び醋は携へざるべからず又濁酒燒酎は各村に
ありブランデー酒罐詰食品等を携ふるは最も良し然
れども爲めに駄馬一匹を増すの慮りあり又輕便なる
水漉器は必らず携帶すべし
携帶品は何々を撰ぶべきや
各自思考一ならずと雖も普通欠くべからざるものは

清韓露渡航案内

乗り物は如何

雨具、金盞、藥罐(アルム、ニユーム製器あり携帶に便なり)
提燈、蠟燭、手拭、石鹼、藥品(解熱丸、速下丸、寶丹、コロ、ダイ
ン、武紐、蚤除け藥、石炭酸入石鹼等なり)

乗り物は與か馬なり途中にて雇換へ又はは繼替へは
至て面倒なる上容易ならず故に最初より片道又は往
復と定めて雇切るべし與は人足四人以上六人を要し
馬なれば馬夫一人付添ふのみ

汽船の解船賃及び旅宿料の差違如何

仁川港に於ては汽船は月尾嶋近傍に碇泊す陸地との
距離稍や遠し船解賃左の如し

汽船月尾嶋内碇泊のとき

汽船月尾嶋外碇泊のとき

清韓露渡航案内

往復雇切 六十錢
 片道雇切 四十錢
 定上期下船客 一人前十五錢
 仁川の旅館和洋兩様あり最上等を大佛といひ歐米人
 皆な之れに宿泊す宿泊料は一日金二圓日本旅館は一
 日金三十八錢以上なり
 釜山港は汽船の碇泊陸地より遠からず汽船と陸地の
 間解船の賃金は往復及び片道共に十錢なり
 元山港も亦汽船の碇泊陸地を距る遠からず解船賃は
 往復金四十錢片道はその半減なり

○京城より各地距離表 (日本里程)

清韓露渡航案内

驪州	揚州	南陽	利川	通津	竹山	安山	安城	高陽	交河	披州
十六里	五里十二丁	九里十二丁	十二里十六丁	八里三十二丁	十五里四丁	九里十八丁	十五里四丁	三里二十丁	七里四丁	七里四丁

富平	仁川	長湍	喬桐	揚根	朔寧	麻田	金浦	加平	永平	振威	積城
四里十六丁	七里十六丁	十二里二十四丁	十六里	十二里二十四丁	十七里四丁	十四里八丁	五里十二丁	十一里二十丁	十二里十六丁	十里二十四丁	八里三十二丁

清韓露渡航案內

忠清	忠清	陽	連	果	抱	陽	龍	陽	陰	始
州	州	道	智	川	川	川	川	仁	城	竹
州	州	道	智	川	川	川	川	仁	城	竹
二里廿四丁	二里廿四丁	二里廿四丁	二里廿四丁	二里廿四丁	二里廿四丁	二里廿四丁	二里廿四丁	二里廿四丁	二里廿四丁	二里廿四丁

大	瑞	沃	沔	舒	秦	林	洪	清	韓	丹	清
興	山	川	川	州	安	川	州	州	山	陽	風
興	山	川	川	州	安	川	州	州	山	陽	風
三十八丁	三十一里四丁	三十六里十六丁	二十七里二十丁	二十六里廿四丁	卅四里二十四丁	三十五里二十丁	二十六里廿四丁	二十五里廿八丁	三十九里四丁	三十二里卅二丁	三十八丁

四十六

清韓露渡航案內

文	堤	平	懷	青	陰	恩	鎮	天	槐	溫	鴻
義	川	澤	仁	陽	城	津	岑	安	山	陽	山
義	川	澤	仁	陽	城	津	岑	安	山	陽	山
二十九里十二丁	二十七里二十丁	十四里八丁	三十一里四丁	二十八里十六丁	二十一里十二丁	三十五里二十丁	三十里八丁	十八里二十四丁	二十四里卅二丁	廿里十六丁	三十六里十六丁

德	稷	定	延	清	扶	石	藍	結	海	新	木
山	山	山	豐	安	餘	城	浦	城	美	昌	川
山	山	山	豐	安	餘	城	浦	城	美	昌	川
二十四里卅二丁	十六里	三十一里四丁	二十八里十六丁	二十四里卅二丁	三十三里廿八丁	三十四里廿四丁	三十二里卅二丁	二十七里二十丁	二十七里二十丁	十九里二十丁	二十一里十二丁

四十七

清韓露渡航案內

燕	黃	牙	德	連	庇	鎮	保	唐	禮	金	求
岐	澗	山	德	山	仁	川	寧	津	山	義	春
二十五里廿八丁	四十五里十二丁	十八里廿四丁	三十里八丁	三十五里廿丁	三十七里十二丁	二十一里十二丁	三十一里四丁	三十四里四丁	二十二里八丁	二十一里十二丁	四十一里廿八丁

全

青	永	全	濟	光	南	順	礪	茂	益	靈
山	同	道	州	州	州	原	天	山	朱	山
三十七里十二丁	四十一里廿八丁	四十四里十六丁	八十三里廿丁 <small>水格は八十六里八丁と云ふ</small>	六十四里	五十六里	六十八里十六丁	三十八里	四十二里廿四丁	四十二里廿四丁	四里

四十八

清韓露渡航案內

珍	淳	珍	昌	臨	金	咸	潭	長	寶	古	靈
嶋	昌	山	平	陂	溝	悅	陽	城	城	阜	光
九十一里二十丁	五十六里	四十里	六十二里八丁	四十三里二十丁	四十六里八丁	三十九里四丁	五十三里卅四丁	五十九里二十丁	七十五里二十丁	五十三里十二丁	六十三里四丁

樂	錦	金	龍	萬	光	扶	康	咸	玉	泰	南
安	山	堤	潭	頃	陽	安	津	平	果	仁	平
六十九里十二丁	四十二里廿四丁	四十七里四丁	四十七里四丁	七十五里十二丁	七十二里十六丁	五十里廿四丁	七十八里八丁	六十八里十六丁	五十八里廿四丁	五十里廿四丁	六十六里廿四丁

四十九

清韓露渡航案内

井	務	谷	任	鎮	興	大	高	沃	興	高	茂
邑	安	城	寶	安	陽	靜	山	溝	德	敵	長
五十二里十六丁	七十里八丁	五十九里廿四丁	五十里廿四丁	五十一里廿丁	七十九里四丁	濟州を距る二 十里廿四丁	四十一里廿八丁	四十七里四丁	五十六里	五十六里卅二丁	五十九里二十丁

清韓露渡航案内

蜜	青	順	蔚	河	仁	咸	草	永	尙	果	安
陽	松	興	山	東	同	陽	溪	川	州	州	東
七十二里	五十五里四丁	四十里三十二丁	七十八里八丁	九十二里卅二丁	五十二里十六丁	六十三里四丁	六十二里八丁	六十里十六丁	四十二里廿四丁	五十三里十二丁	四十八里

求	雲	長	同	海	旋	和	慶	晉	昌	金
禮	峯	水	福	南	義	順	道	州	州	海
六十七里二十丁	六十一里二丁	五十七里十二丁	六十四里卅二丁	八十里	濟州を距る二 十里	六十七里二十丁	六十七里廿丁	七十五里廿丁	七十八里八丁	七十八里八丁

牽	善	大	巨	東	居	漆	陝	清	醴	榮	梁
海	山	邱	濟	萊(釜山)	昌	谷	川	道	水	川	山
六十六里廿四丁	四十八里卅二丁	五十九里廿丁	八十八里卅二丁	八十八里卅八丁	六十三里四丁	五十八里廿四丁	六十三里四丁	六十五里廿八丁	四十二里廿四丁	四十二里廿四丁	八十里

清韓露渡航案內

咸興	咸興	真	漆	清	龍	開	固	慶	昆	金
安海	昌	寶	原	河	宮	寧	城	山	陽	山
七十一里四丁	六十六里廿四丁	三十九里四丁	五十五里四丁	六十八里十六丁	七十二里	四十里	四十八里卅二丁	八十里	六十二里八丁	四十九里廿八丁

安	知	開	鎮	彦	春	河	三	南	盈	義	豐
義	禮	慶	海	陽	化	陽	嘉	海	德	城	基
六十六里廿四丁	五十四里八丁	三十三里廿八丁	七十四里廿四丁	七十二里	四十五里十二丁	六十里十六丁	六十八里十六丁	八十里卅二丁	七十里八丁	五十六里十六丁	三十八里八丁

五十二

清韓露渡航案內

高	茲	昌	英	熊	泗	靈	延	新	軍	丹	玄
靈	仁	寧	陽	川	川	山	日	寧	威	城	風
五十七里廿八丁	六十四里	六十三里四丁	五十六里卅二丁	七十六里十六丁	七十八里八丁	六十五里廿八丁	六十八里十六丁	五十六里卅二丁	五十里廿四丁	七十八里八丁	六十四里

豐	平	海	延	黃	黃	機	長	禮	比	義	山
川	山	州	安	州	道	張	醫	安	安	興	清
四十八里卅二丁	二十三里四丁	卅三里廿八丁	二十二里八丁	四十里三十二丁	八十四里十六丁	七十二里	四十五里十二丁	四十八里	五十四里八丁	七十四里廿四丁	五十三

清韓露渡航案內

鳳	瓮	谷	兔	康	長	新	信	遂	安	瑞	長
山	津	山	山	翎	漣	溪	川	安	岳	興	淵
卅六里十六丁	四十二里廿四丁	卅九里四丁	二十里十六丁	四十里	五十里廿四丁	二十九里十二丁	四十里卅二丁	卅八里八丁	四十七里四丁	卅里八丁	四十六里八丁

平

成	昌	江	安	義	安	殷	招	文	金	白	載
川	城	界	州	州	道	栗	禾	化	川	川	寧
六十三里四丁	九十六里	百十五里廿丁	六十四里	九十六里		四十八里卅二丁	四十五里十二丁	四十六里八丁	十七里廿八丁	十八里二十四丁	四十里卅二丁

五十四

清韓露渡航案內

宣	寧	博	碧	順	嘉	德	咸	楚	鐵	中	肅
川	邊	川	潼	川	山	川	縱	山	山	和	川
八十里卅二丁	六十八里十六丁	六十七里廿丁	九十六里卅二丁	六十二里廿四丁	六十九里十二丁	七十二里卅二丁	五十五里四丁	百四里	八十五里十二丁	四十四里十六丁	五十八里四丁

寧	渭	雲	熙	郭	价	祥	三	龍	慈	龜	朔
遠	原	山	川	山	川	原	和	川	山	城	州
七十一里四丁	百十五里二十丁	七十三里廿八丁	八十六里八丁	七十八里八丁	七十二里卅二丁	五十五里四丁	五十八里廿四丁	八十八里	五十六里卅二丁	七十八里八丁	九十里廿四丁

五十五

清韓露渡航案內

江原道	般山	孟山	順山	江東	江西	龍岡	泰川	陽德	甄山	三登	永柔
	五十九里廿丁	六十六里廿四丁	五十三里十二丁	五十四里八丁	五十三里十二丁	五十六里卅二丁	七十二里	八十	五十六里卅二丁	五十六里卅二丁	五十六里

江陵	淮陽	春川	三陟	伊川	通川	原州	襄陽	鐵原	寧越	平海	旌善
四十七里四丁	三十三里廿八丁	十八里八丁	五十七里廿八丁	二十四里卅二丁	卅九里四丁	二十一里十二丁	四十八里	十七里廿八丁	卅六里十六丁	溫泉 七十八里八丁	三十八里八丁

五十六

清韓露渡航案內

高平	平昌	蔚珍	平康	狼川	楊口	麟蹄	橫城	安峽	杆城	金城	歙谷
四十五里十二丁	卅二里卅二丁	七十一里四丁	廿二里八丁	廿里十六丁	三十二里卅二丁	卅二里卅二丁	二十一里十二丁	十九里二十丁	四十八里卅二丁	二十	四十一里廿八丁

金化	洪川	鏡淵	吉洲	永興	慶源	鍾城	慶興	咸興	會寧	穩城	富寧
十九里二十丁	十九里二十丁		百二十四里	六十里十六丁	百九十五里四丁	百八十一里十二丁	二百五里十二丁	百四十二里八丁	百七十二里十六丁	百八十七里廿丁	百五十里八丁

五十七

清韓露渡航案内

北	定	安	端	甲	文	洪
青	平	邊	川	山	川	原
八十九里廿八丁	六十四里	四十六里八丁	百八里	百十三里十二丁	五十二里十六丁	八十一里廿八丁

交通

德	茂	三	明	長	高	利
源	山	水	門	津	原	原
四十九里廿八丁	百六十四里十六丁	百廿一里十二丁	百三十五里廿丁	百卅五里廿丁	五十六里	九十九里四丁

五十八

朝鮮國內は毎夜諸峯に烽燧を以て無異平安若くは事變を報せ其の數八道合算三百六十五ヶ所別に間崎二百六十九所あり白晝急變を報ずるには焚柴昇烟を以てすと云ふ

清韓露渡航案内

急使を把撥といひ尙瑞院と名ける官衙より馬牌及び草料切符を給せらる該切符の表面には官位氏名從者人員等を詳記し公務を以て何道何地に往復云々と記載あり是れを各驛所に示し人馬を繼換ゆと云ふ歩撥とは急飛脚なり八道の驛馬は帳面上千四百九十九頭ありと云ふ平時は耕耘若くは遊獵に従事す八道の木船は其製造略ぼ我が大和海に似て通常帆檣二本のもの多し其數大小合計五百五十五隻ありと云ふ當國の電信は京城釜山間のみにして釜山に於ては明治十六年三月長崎より海底電線を達し我遞信省の出張局あり又京城より仁川平壤を経て義州に至り清國線と連絡するものあり

清韓露渡航案內

各線の電報料左の如し

朝鮮線自京城至釜山漢文每字金十一錢

歐文每語二十二錢

帝國日本線自釜山至日本各地歐文每語金四十錢

從京城(歐文每語)漢字は歐語の半價なり

清	仁川	十二錢	北京	五十一錢	日本	一圓二十六錢
國	平壤	二十錢	上海	五十二錢	歐州	二圓五十四錢
電	義州	廿二錢	芝罘	四十七錢	露國	二圓二十九錢
報	天津	四十錢			露國(亞細亞州)	二圓四錢

朝鮮海關は毎夕京城仁川間に飛脚を發して所謂郵便を往

清韓露渡航案內

復す
又陰曆毎月朔望の二回京城元山間に飛脚の往得ありこれを海關便と名づく
近頃我が居留民陸運會社なるものを設け毎朝京城仁川間に飛脚を往復する外か専ら荷物運搬等を取扱ふなり其の他回漕專業のもの兩三店ありて京城仁川の間頗る便利なり當國三港及び京城に我が帝國の出張郵便局あり我が帝國と同價の郵便切手を貼して各國に文通することを得るのみならず雜誌及び見本品の遞送亦た自由なり清國海關は専ら當國居留民の爲めに清國と同價の郵便切手を貼して文書雜誌及び見本品の遞送を取扱ひ當國海關に於て清國郵便切手を賣下す其稅率左の如し

清韓露渡航案内

清 國 郵 便	
從朝鮮京城及三港	信書量四匁
北京並各開港場	三分 <small>カンダリン</small>
日本	二分 <small>一分は我が 約一匁六厘 六八に當る</small>
香港	四分
日	三分
北米合衆共和國經日本	三分
從朝鮮京城及三港	雜誌量卅二匁
北米合衆共和國經歐洲	四分
同盟各國	四分

我が郵船會社は左の諸船を以て朝鮮及び清露兩國に定期航回す

清韓露渡航案内

其の航路三線あり甲は神戸より長崎五島對州釜山仁川芝罘天津に前航して再び各地を経て神戸に航す乙は神戸より長崎五島釜山元山及び露國浦塩に前航して飯途此の各地に至る丙は長崎釜山元山浦塩に達し元山仁川上海に至り更に仁川を経て長崎に航す三線の汽船發着の時日は各地郵船會社支店より時に各官衙及び貿易商に報告あり

船名	長	幅	深	噸數	公稱馬力
敦賀丸	二二九尺	二八尺	一四尺	七四三	一一〇
尾張丸	二二一	三〇	一九	六五六	一二三
肥後丸	二四四	三三	二二	八七一	一五〇

清韓露渡航案内

我が帝國商民の設立に係はる在京城居留地商業會議所に就きて實際取引を問合せたることあり左に問答を掲げて参考便にす

(問) 清人と朝鮮人及日本人と朝鮮人との實際取引の模様如何

(答) 取引に現金拂と延拂と云ひて日限を立て拂込ましむる二様あり此の期限は概ね一ヶ月にて朝鮮人に物品を賣渡す時に約束することあれども只だ信用のみにて金錢の貸借は兩國商民間に行はれず延期定は實際物品を貸與する姿なれども是れが爲め利子等を拂は

貿易商取引の實況

清韓露渡航案内

す尤も延期定にするときは自ら當時の相場より少しく見積位の事に止まれり

(問) 預め物産に對して資本を貸與することありや
清人は人蔘畑を抵當として金錢物件を貸與し翌年収獲の中より貸付金に對する人蔘を引去り若し又た入用なるときは次年の収獲を書入れしめ更に貸付を爲すことあり
牛皮は最初皮の大小を點檢し一日幾枚は必ら持ち込むとの約を立て前貸を爲すこと日本人も清人も異なる所なし
大豆その他の荷物にて廣く集蒐を要するものは預じめ幾何かの前貸をなす元山の如く斯る場合には二歩

清韓露渡航案内

乃至三分の利子を拂はしむ尤も海産物其他は都買と

(問) 朝鮮人相互の取引は如何

(答) 政府の特許を得て地方物産賣捌問屋を都買と云ひ特

許を受くる迄に至らざるものを問屋と云ひ此の二種

問屋の手を経て小賣商人は下受するなり

(問) 勘定は無論韓錢を以てすることならんが巨額の計算

には不便少なからざるべし金銀にても用ゆるや將た

又た手形様のものありや

(答) 如何なる巨額の取引も韓錢にて受渡をなし極めて信

用ある土着の舊家より預金手形を出す事あり即ち紙

の中央に錢額並に氏名を記し捺印して眞二つに切り

清韓露渡航案内

其の一を留め置き他の半片を手形として使用する是れ

を音票と稱す勘定は毎五日の日を以て期限と爲す習慣

にて此の日を派収と稱へ別に期限を定めたる延勘定

の外は此の日に正算す

今日にては我が國の銀貨を携ゆれば孰れの地に到る

も不自由は無し銀貨丈けの價には悦んで受取なり又

地方の者我が帝國の紙幣を貯へる者あり是は納税の

時京城に持來れば何時も韓錢と交換することを知る

故なるべし尤も清人との大取引には往々馬蹄銀を用

ふることあり

(問) 貸借上大概確かなる仲人を保証人とし貸方に迷惑を

掛けざる代り仲人は口錢として通常借用金高の五歩

清韓露渡航案内

を所得とす若し借主に於て返辨の義務を果し得ざる
時は抵當あれば是れを押へ若し無抵當なれば其各親
屬に迫りて辨償せしむる習慣なり
(問) 朝鮮人相互の金利は幾何を程度となすか
(答) 通常月二歩五厘より五歩以内なり

○支那の部

支那帝國は國號を清といひ亞細亞洲の東南部に位して其
の境界は北は露領の西比利亞と接し西も露領の中央亞細
亞と界し南は英領の印度及び英國の保護國なる緬甸と佛
國の保護國なる安南等の國々に接して面積は九十万方里
の廣さを占め即ち亞細亞全洲の四分の一以上にて歐羅巴

清韓露渡航案内

一洲よりも大なり
斯く露英佛等の諸強國の版圖又は葡萄牙領の澳門港あり
又東北には朝鮮と境を交へて我が日本帝國とは太平洋の
一部なる黃海を隔て、遙かに相對しその臺灣の一島は廿
七八年役我が國に割讓することゝなれり
國內は支那本部滿州蒙古外蒙古青海新疆西藏の七部に大
別し更に本部は直隸山東山西陝西甘肅江蘇安徽河南湖北
湖南江南浙江福建廣東廣西四川貴州雲南の十八省に分ち
又滿州も今は盛京吉林黑龍江の三省に分ち之れを東三省
といふ
域内に高山あり大河あり北嶺南嶺及び黃河揚子江の如き
是れなり又高臺あり平原あり沙漠あり西藏揚子江沿岸及

清韓露渡航案内

び戈壁沙漠の如き是れなり
氣候は北部地方一般に寒冷にして氷雪多く天津を流る、
白河の如きは冬月河水凍りて舟行を絶つに至る然れども
南部地方は暖熱にして殆ど霜雪を見ざる處あり
國産の重なるものは茶、陶器、漆器、絹布、蠶絲、綿布、紙等なり

渤海 遼東灣 直隸灣

渤海は又北海ともいひ黄海の北部なる金州半島の旅順口
と登州半島の山東角と南北相對して直隸峽をなし其距離
七十三哩餘その間數多の嶋嶼ありて自然の要害をなせり
遼東灣は渤海の北部に灣入せるところにして内に牛莊港
あり直隸灣は即ち北部に灣入せるところにして内に天津

清韓露渡航案内

港あり黄河の大河これに注げり

威海衛

威海衛は山東省の北端にありて劉公嶋其の前面に在りて
最も碇泊に便なり芝罘港を距る二十二里(我國の里數)砲臺
あり日清役の戦地にして今は英國の租借地となれり

芝罘

芝罘は山東岬の北方に在る要港なり此の地本來の名稱は
烟臺と云へり是れ明の頃倭寇の來襲を所在の兵營に報ず
るため狼烟の臺を設けたるに由れり故に支那人は今も尙
ほ多く烟臺と呼べりこの港は不凍港にして商港と軍港と

清韓露渡航案内

を兼ねたる殊に緊要の處なり
又此の地より内地寧海州萊陽縣及び棲霞縣に通ずる三
條の道ありいづれも險阻なる山を越ぬ未だ車を行るべか
らず

電信は二線路あり一は天津に一は上海に達す
氣候は支那北部中には尤も頗良にして且港内潮水も清
淨なるを以て夏季は衛生と遊覽とを兼ねて天津北京等よ
り外人の來るもの多しといふ
住民の大半は漁業によりて生活し富豪少し産物は最も海
産物に富み鯖魚及び大口魚の類殊に多し其の他豆類豆餅
(豆より油を搾りたる殘滓なり)麥、粟、組、蠶、繭、繭、綢、石器等にし
てその運搬は馬、驢と人夫とに藉れり

清韓露渡航案内

本港より各港への距離は天津へ二百四十五哩牛莊へ
二百十四哩旅順口へ七十五哩上海へ五百十一哩朝鮮
仁川へ二百七十二哩我が長崎へ五百二十二哩馬開へ
六百八哩あり

○大沽

太沽は白河の河口にあり砲臺を以て有名なり清國有数の
要地にして北清事變の際我が軍が連合軍に先ち第一着に
占領せし地なり

○白河

白河は一名北河又天津河と云ひ黄河以北にありては最大

清韓露渡航案内

の河流なり其の河幅河口の邊は僅かに二丁餘に過ぎざれども遡りて天津に至れば三十間に満たず是れより上流は狭く且つ浅し河口より天津まで航行することを得れども河流屈曲甚しく且つ水底に泥沙埋まりて浅處二あり一は天津の下凡そ九英里にして退潮の時深さ七英尺、一は天津を下る三英里に深さ六英里半とす故に長大なる船舶にありては殊に熟練と注意を要す

○天津

天津は白河口を遡ること凡そ十三里餘大運河と白河と合流する處の南岸に在り地勢平坦にして濕地なれども船舶の運送は極めて便なり清國有数の要地にして直隸總督衙

清韓露渡航案内

門の所在地たり北清事件の際又戦區となりし地なり外國人居留地は紫竹林に在りて白河に臨めり即佛租界は東北部を占め英租界は西南部なり、英佛二國は早く勝地を占むれど露米の如きは不便の地に屬す天津太沽間の鐵道は延長三十英里太沽より白河の左岸を経て紫竹林佛租界の對岸なる天津停車場に至る其間唯だ軍糧城と稱する兵營所在の地に停車場を置のみ支那人は各所に雜處して廣東人もあれば山西人もあり湖南人もありて風俗は輕薄なりと稱せらる此地元と固有の物産なし人民は皆取次業に従事す天津の支那人街は極めて不潔なり夏日は臭氣紛々として土地に馴れざる旅行者は殆んど堪へざらんとする有様な

清韓露渡航案内

り家屋は中人以下は粘土或は蘆草を以て造り概して矮小にして空氣の流通宜しからむ遠くより之れを望めば泥塊の大なるもの、如し只富者及び衙門寺院等は瓦屋なり支那人は古より墳墓を重んずるの習慣ありて墓地には金を惜まざるの風あり故に郊外到る處に土饅頭の如き墳墓の累々たるを見る中にも貴人の墓の如きはその規模裝飾大に觀るべきものあり
氣候は極めて悪く雨少く風多く而して寒暑共に強し極暑百二十度を過ぎ冬季は河水凍合して殆んど厚さ十五英尺に至り全く舟行を絶つ之を封河といふ
此の地より各地への距離は北京へ三十三里、山海關へ五十五里、上海へ二百四十五哩、牛莊へ二百七十哩、仁川

清韓露渡航案内

へ五百三十五哩、釜山へ七百六十哩、而して我が長崎より仁川芝罘を経て九百五十哩あり

○大運河

大運河は揚子江の南より起り天津に至りて白河と合流する處を三岔河口と稱す北京に上る舟楫は皆な此處に輻輳し全流貨物を以て充積し河水を見ること稀れなり
運河は長さ凡そ千四百哩ありて河幅一丁に出入し深さ凡そ五六尺に及べり
支那にては古より南船北馬の語ありて南人は揚子江の長流と運河の水運と所在の大湖とにより何れに行くも船に乘るもの多く北人は重に馬、驢馬に騎して曠野平原を乗り

廻るを常とするが故なり
運河は又揚子江以南を江南の運河と呼び昔し隋楊帝の開鑿に成り是れより北は金元明清歴代の開鑿せる所なり

○黄河

黄河は揚子江に次ぎて支那の大河なり此河は源を西藏に起し長城を出入し更に山東省に至りて海に注ぐ長さ實に二千六百哩なり此の河は水勢急激にして且つ水涸れ易きより舟筏の便を興ふること甚だ少なく却りて水害多く實に支那歴代の憂たり是れ上流より泥土を流して河底は毎
年高層となり水色常に黄濁にして昔より濟みたることなし

内案航渡露韓清

○天津より北京に至る水路

天津より北京の間水路を取るときは風模様により或は三日を費し或は五日を要することあり故に陸路よりは却りて遅きを免れず然れども幸にして順風の便を得ば僅かに二日半にて通州に着すべし平時此の河を遡るの舟は長さ六間許ありて乗客五六人を容るゝに足りその形略ぼ我が屋形船に類せり白河の兩岸は平野際涯なく河水は混沌恰も膝を濬したるが如し

○天津より北京に至る陸路

天津より北京に至る間は僅かに三十三里なれば若し道路

内案航渡露韓清

清韓露渡航案内

善く修繕なしあらば一日にして達し得べきもこの間の道路の悪しきこと名状すべからず原野と畑地とを間はす成るべく凸凹少なく成るべく泥濘なき所を撰みて通過せざるべからず故に二頭曳の馬車にて二日間の行程たり天津北京兩地の中間にある驛を河西務といひ又天津と河西務との中間に揚村の一驛あり河西務と北京との間にも亦碼頭驛あり碼頭驛より行くこと數里にして張家灣あり此の地に城廓を構ふ即ち天津より北京帝都への通路を扼くする要塞なり張家灣を過ぐれば阪路あり登れば遙かに通州の八里橋を望観すべし更に行くこと二里許葦家園の一小驛あり又行くこと二里許にして北京外城の東華門に達す而してその

清韓露渡航案内

間に巨大の墳墓多し

○通州

通州は北京天津間の航路の極まる處なるを以て天津よりの客船は皆此處に輻輳すその雜沓天津の三岔河口に譲らす市街の周圍には瓦牆をめぐらせり而して街上別に觀るべきものなし只瓦を以て積み上げたる高さ凡そ三十五間許の一の八角塔あり支那人中には頗る有名なり河岸に北京貢米を入れる倉庫數十棟あり通州北京間に惠通河と云へる溝渠ありこれ亦通州より貢米を北京に運送する爲めに特に開鑿したるを以てなり此の河は輻六七間平時は水少くして舟を行るべからず依り

て春夏入貢の多き時に當り船を入れたる後に堰を設けて水を湛へ由りて僅かに上下するなり

○通州北京間

通州は北京を去ること僅かに五里なれども道路悪くして車馬を行るべきも迂回の徒勞を免れざるを以て寧ろ歩行するに如かず故に七八時間を費さざるべからず

○北京

北京は清國の首府にして天津より汽車四時間にして達すべし其停車場は北京外城内正陽門にあり地勢は直隸省の中央に位し地勢平衍數里に亘り大行の山脉西より來りて

内案航渡露韓清

北し宣化昌平の諸地に至り更に東に迂回して山海關に達し又東南には渤海の大灣を控へ南に黄河の流れあり而して其の間白河玉河渾河の諸水あり皆以て灌溉を利し漕運を便にす古來支那人が此地の形勝天下に冠絶し誠に天賦の國なりと稱せるは蓋し之が爲めなるべし
北京は往昔堯舜の時は幽都と稱し周に至り幽州と呼び春秋戰國の際には燕と稱しその後遼宋金元の都せし處にして明の起るに及び今の南京に都せしが永樂中此地に遷都して順天府と改め又南京と對して北京と呼べり清朝の滿州より入りて國を建つるや尙據りて帝京と爲し以て今日に至り即ち今の北京城は明朝の遺物なり
市街は内城外城の二區に分ち内城は又滿城といひ内

内案航渡露韓清

清韓露渡航案内

城は方形にして周圍四十清里瓦牆を以て繞らす高さ三丈五尺五寸基厚さ六丈二尺頂厚さ五丈門を開くと九箇南側の正門を正陽と云ひ其左を崇文と云ひ右を宣武と云ふ北側の東を安定と云ひ其西を德勝と云ひ東側の北を東直と云ひ其南を朝陽と云ひ西側の北を西直といひ其南を阜成と云ふ各門皆樓門あり高さ九十九尺極めて壯觀なり又門前には皆枹形あり亦瓦牆を以てこれを圍めり是等樓門及び瓦牆を造る所の煉瓦は長さ一尺二三寸厚さ五寸ありて實に堅牢なり又内城に明の永樂帝の鑄造したる重さ十二万斤の鐘を懸けたる鐘樓あり深夜之れを撞けば殷々として二里四方に響くといふ。

清韓露渡航案内

又鼓樓あり日夜線香を燒きて時刻を計り鼓を打ちて之を府民に報ずる處なり觀星臺は東南隅城牆の上にあり元代に造れる銅製の渾天儀及び康熙帝の時に製造せる器械等今尙ほ存在す内城内には又周圍十八清里の皇城あり其高さ約二丈にして四大門二小門を設け宮殿樓閣無慮一千一百を羅列せり城内を五治に分つて八旗を置き樞要の官署散在せり旗人の邸宅は愛親覺羅氏の大業成るの後世祖順治帝の時に王城守護の爲めに滿州より隨從せる旗人に與へしものにて皆皇城紫禁門外にあり旗人とは皆八旗兵なり八旗兵には其旗色に入種ありて區別す地名を交民巷と稱し各國公使館の在る處にして我が公使館も此處にあり團匪事件に際

清韓露渡航案内

しては未曾有の慘劇を演せし處なり
皇城の北部に清帝の遊園あり西苑と云ふ南北十六町東西
凡そ三四町園内に池あり橋あり樹本蒼鬱景致最も愛すべ
し
神武門外に景山と稱する假山あり五峯聳立して各峯佛像
を安置す是れ風水の説に依り正北を鎮むる爲めに架けし
ものにして五峯の中央の中央の一峯殊に高く直立百四十七尺
北京城内何れの處にても之を望見するを得べし
大廟は紫禁城の南東に在り即ち清朝の宗廟あり前殿中殿
後殿の三殿ありて歴代帝后の神龕は中殿に安置せり又社
稷壇あり土地及び穀物を祭る處とす
孔廟あり即ち文廟にして我が邦の聖堂の如く孔子の廟と

清韓露渡航案内

學校とを兼ねたるものにして壯麗美なり堂の中央に高
さ二尺五寸の位牌を安んじ漢字及び滿州字にて至聖先師
孔夫子之神位と記し左右に顔回曹子等の十哲及び朱熹外
二人の座像を安置す
外城は内城南面を包繞せる外廓にして其周圍二十八清里
永定左安等の七門を設く南方内城に接したる一半は街路
稍般賑なれども北部は池沼多く人家少なし而して城内の
形は長方形なり故に内城の方形と相聯なりて恰も凸字状
を爲せり
天壇は外城永定門内の東部に位して皇城を距る凡そ一里
半許にあり清帝の天を祭るが爲めに設けたるものにして
最も神聖の處とす先農壇は亦永定門内の西部にあり是れ

清韓露渡航案内

神農氏を祭る處とす

凡べて北京の街路は内外城ともに他の都城と異にして概して路幅廣く中には二十間許の大路あり然れども路の中
央に二條の露店の如き矮屋櫛比して甚だ不体裁を免れず
地下には花崗石の大下水あれども今は浚濶行き届かざれば汚水を疏通せず全く廢物に屬せり
内城は一体に路行く人も官吏紳士等も多くその頗る繁盛なる各門の通路にても小賈多く大賈富商は却りて外城に多しとす

北京城外數里の地には觀るべきの名勝舊蹟頗る多し圓明園、玉泉山、昆明湖、昌平州、明陵、湯山等なりとす
旅館には華東京都ホテル及び德興堂等最も有名なる日本

清韓露渡航案内

旅館あり前者は普通一泊五弗以上にして總べての設備西洋ホテルに準じ後者は一泊二弗内外なるも在留日本人の俱樂部を兼ね共に玉突臺等に至る迄の設備頗る完成せり

○青州府

青州府は大公望の封地として著名なる處商賈繁華ならざるも名所舊蹟の尋ぬべき處少ながら是此地より省城濟南府に至るべき陸路の交通は約三日間の行程なり
青嶋は膠州灣北岸に突出せる一小半島にして有名なる獨乙租借の經營地なり市街は悉く新設の寬道にして東南海濱に沿ふたる一帯を外國人居留地となし
海關停車場銀行其他主なる各種の商賈多く皆此處にあり

清韓露渡航案内

而して其西北に聳たる山麓の小斜面は削りて支那人及び外國人の雜居地となす此地上海及芝罘天津等に至るべき水路の交通は一週一回土曜日曜の發着あり運賃は各地共に等しく支那人上等拾弗とす其他海上の交通には我國商船の長崎地方より海産物及び雜貨等を輸送するもの或は上海方面より米穀雜貨を運送するもの等時々臨時の交通あり

○秦皇島

直隸省撫寧縣に屬する一小半島にして西北方戴河の金山嘴と稱する一岬と相對し其間不完全なる一灣形をなし海面淺くして大船を舶すること極めて不便困難なるも天津

清韓露渡航案内

牛莊間に位せる唯一不凍港なるを以て冬期北清の交通稍濶繁なり

○南口

南口は山西直隸兩省の境界をなす山脉を横斷して直隸に入るべき一小驛にして實に北清に在りて咽喉の地たり往時は兵營を設け以て蒙古の侵入に備へしものなり又驛の圍墻の外北方に瓦墻を築きその極まる所に望見臺あり支那歴史に所謂塞なるものなり
此地常に蒙古地方より羊毛家畜等を北京に輸入し北支那より製茶等を露領キヤクタ(賣買城)に輸出する所とす

清韓露渡航案内

居庸關

居庸關は南口より長城に至るの道に當れり此の間僅か六里の道程なれども元と一條の峽路にして溪水一たび氾濫するときは道路忽ち河底と變ず平常水少なきときと雖も兩側には斷崖峙ち道には巖石多く極めて惡路なり居庸關の門に入れば四壁は白色大理石を以て造み佛像彫刻し其下に梵語西藏語滿女真語オムイゴール及び支那語を以て經文を刻せり此の關の近傍には案外に謫せられたる囚徒あり

長城

清韓露渡航案内

長城は通して萬里の長城と云ひ實に世界の一偉觀たり東方直隸省の山海關より起り山に登り谷に亘り蜿蜒西の方甘肅省の嘉峪關に至りて盡く又處によりては二重或は三重に築造す故に此の重複せる者を計れば延長實に二千哩餘に達すといふ而して高さは處によりて一定せず最も高きは十五六丈低きも二丈に下らず其の厚さは基礎に於て二丈五尺頂に於て一丈五尺と云へり構造法は土と石塊とを以て築造し沿城一帶處々に關口を開き以て内外の往來を通す故に支那人は長城以外の地を稱して口外と云へり又牆には瓦を以て築きたる矢狹間あり此の長城は秦の始皇の時蒙恬の築きたるものなりと稱すれども今日に存す

清韓露渡航案内

るものは始皇帝の遺業にあらずして梁の武帝が大同六年
に新築せしものなりといふ後又明代に至りても修築増設
せり居庸關より更に險路を行くこと僅かに半里許にして
入達嶺に達すべし是れ長城の關門なり俗に之を上門と稱
す蓋し山下の南口關は下關にして中腹の居庸關は中關な
ればなり而して此の八達嶺の長城は即ち内部の墻壁にし
て是れより外に更に外部の長城あるなり此地山上なりと
雖も樹木なく降雨少く空氣常に乾燥なるが故に墻壁壘も
古色を帯びず

○張家口

張家口は八達嶺の門口より更に進むこと十數里外部の長

清韓露渡航案内

城に近き邊にあり此の地は蒙古部の内地貿易の盛んなる
處にして支那人は此處を茶商の中心とし是れより販路を
定めて恰克圖その他へ輸送するなり又蒙古人の此の地に
於ける主要なる貿易品は牲畜及び毛皮なり

○濟南府

濟南府は山東省の首城にして山東巡撫の駐劄地たり山東
省は渤海と黄海との間に突出し朝鮮と相對して半島形を
なす南は江蘇に連り西は河南に接し北は直隸に界し東北
は山東海峽を隔て、遙に盛京省を望む
府は古へ虞舜の耕せし處として城内に舞の祠あり又韓信
の齊軍を襲撃せし古戰場其附近にあり

○山海關

清韓露渡航案内

山海關は清國內地より東三省即ち滿州地方に至る可き通
 路の要關として有名なる万里長城の起點にして其地勢は
 北西蜿蜒たる峻嶺を擁して南大海に濱する一部緩斜の地
 に榆關城を築き東門樓上額して天下第一關と題す
 城は高さ四丈餘周圍約十二清里の間に四門を設け一に臨
 閩關と稱し若くは臨渝臨餘等の名あり北清事變に際し各
 國軍隊の駐屯地となりし處從て各外人の居住するもの少
 なからせ

○牛莊

清韓露渡航案内

牛莊は遼河口を溯ぼる約十三哩の地海城縣下の管轄にし
 て通商埠頭は營子口と稱し牛莊城を距る約十三哩の下流
 にあり滿州唯一の開港地として商業頗る盛んなるも冬期
 は天津と等しく河水結氷し船舶の往來杜絶せり
 物産は豆、豆餅、豆油、麻、生絲、黃麻、洋藍、毛皮、生皮等我國への重
 要輸出品頗る多し
 此地の停車場たる大石橋驛より東洋鐵道各地に至る里程
 左の如し

(驛名)

(距離)

旅順口
 ダルニ
 大連灣

二七五露里
 二四六露里
 二二四露里

九十七

清韓露渡航案内

蓋州 四九露里
 海城 五一露里
 遼陽 一〇八露里
 鐵嶺 二四九露里
 關原 二八〇露里

以上記載は只主要の驛に過ぎざるも其他對岸三露里の牛家屯驛に至れば錦州を経て山海關及天津北京に至るべき關内外鐵路の連絡あり

○東三省

東三省とは盛京、吉林、黒龍江の三省を云ひ即ち滿州の地なり滿州は支那の北東部に位し其の北方と東方とは黒龍江

清韓露渡航案内

と烏蘇里江とに由りて露領の沿海州と黒龍州とに界し南方は鴨綠江と豆滿江とに由りて朝鮮と土壤を接し西方は興安嶺に由りて蒙古と境域を限り面積は三十六万平方哩の廣さを有するも概して廣漠不毛特に北方黒龍江の沿岸は森林蒼鬱全く無人の境あり

氣候亦概ね寒暑共に酷しく河水堅氷を絡びて舟を行るべからざるもの多し山脈は興安山脈と長白山脈とにして河流は内地には松花江、遼河の二流あり

○遼河

遼河は一名西刺木倫河と稱し源を遠く興安嶺に發し東に流れて老哈江を合せ滿州に入りて又渾河を合せ更に南に

清韓露渡航案内

流れ營口に至りて海に入る此の河は謂ゆる東三省沿海の防禦線たる遼東灣に注ぐを以て兵路上にも大なる關係を有するもの、如し
河流は急激にして土沙を流し水色濁れり又河の東岸は總べて濕地にして西岸は沙泥より成れる淺洲にして其の長さ凡そ三里に亘り一面に蘆葦を生せり此の淺洲は乾潮のときは其の全面を露はすなり潮汐乾満の差は大にして平均十六尺あり
此の邊は季冬寒氣甚しく爲めに大概十一月下旬に至れば河水凍りて恰も天津港の如く船舶の航路を絶ち翌年三月中旬に至らざれば又融解せざるなり

清韓露渡航案内

○金州半嶋

金州半嶋は即ち盛京の南部にして其の南端の旅順岬は黄海と渤海灣との分界線を爲し地勢是れより許多の嶋嶼を點出し南方山東省の登州半嶋と相連接しその間の海峡を直隸峽と稱し實に天險と稱せり
半嶋の南端に旅順口あり其の東の海灣を大連灣と稱ひ西は即ち遼東灣なり故に此の半嶋の地勢たる頗る滿州及び北清の兵路上に關係を有せり山脉は東北長白山脈より西南に亘りて遂に此の半嶋の南端に達す

○旅順口

清韓露渡航案内

旅順口は盛京省金州半島の南岬端に位し元と一村落たり
しも清國北洋艦隊の本營の在る處なりしが日清役我が兵
これを陥落したり其後露國の租借地となり頻りに堅牢の
砲臺を建築し要所に水雷を布設せりといふ日露大戰の起
るや我が海軍は先づその砲臺を破壊し灣口を封鎖せり

○大連灣

大連灣は金州半島の岬角の東南部に在る一良灣にして其
の灣口は東南に向ひ亦渤海灣口の要害たり旅順口の沿海
は淺くして岩礁多きも老鐵山海に迫りて屹立し以て要害
の處たり今は鐵道の樞要驛を設け金州ダルニー旅順と共
に遼東半島西端の著名地となれり

清韓露渡航案内

○奉天府

奉天府は一に盛京と稱し滿人は多く奉天府と稱し漢人は
盛京と呼ぶ府は奉天省の中央に位し實に清朝創業の地た
り省の境には長柵を繞らし十二の門を開く城壁の周圍四
里餘而も甚だ固からず廓内又別に内廟あり内に清帝の離
宮及び王族の居邸官衙等ありて景色佳絶なり又此の地は
往年英佛同盟軍の北京に侵入せし時清帝の遁れて蒙難せ
し處なり今はダルニーハルビン間の中間に位せる鐵道の
樞要驛たり

○鳳凰城 九連城

清韓露渡航案内

鳳凰城は即ち湯山城にして鴨綠江々口に近く朝鮮との互市場たり日清役の戦區たるを以て名高し摩天嶺の險を越ゆれば奉天に達す
九連城は盛京省安東縣に屬して鴨綠江を隔て、朝鮮平安道の義州府と相對し相距ること十五里内外に過ぎず一小村なれども朝鮮より北京に至るの要衝に當れり而して是れより黃海岸に沿ひて營口(牛莊)に至る凡そ七十餘里の間道路頗る平夷なり

○鴨綠江

鴨綠江は源を白頭山に發し朝鮮の國境を流れ百餘里にして海に注ぐ江口に六嶋あり江水茲に至りて分れて三派と

清韓露渡航案内

爲り其の西岸に沿ふものを三江と云ひ(一名上江)その中央を流るゝものを中江と呼び實に清韓兩國の分界たり而して其の東岸に沿ふものは即ち鴨綠江の本流なり此の邊は江流概して漸く淺く又甚だ駛からずその兩岸は平時は空濠となして大凡三十丁の廣さあり
又江流漸く上りて韓の昌城府の邊に至れば廣さ五町乃至八町深さ二尋乃至五尋あり買船は遡りて韓の江界府に至るべし然れども江中往々暗礁淺洲ありて能く航路を知るものにあざれば容易に舟を行るべからずと云ふ
概して江水は東岸は懸崖絶壁殆んど天然の壑寨を爲せども西岸は常に平夷にして又防守の天險なし

○興 京

興京は奉天府の東方凡そ二十五里餘に位し通化を距る亦凡そ二十五里吉林境の長柵に近し此の地は清朝累代の佳地たりしを以て祖先の宗廟あり

○吉 林 府

吉林府は吉林省の首府にして松花江に臨み汽船は黒龍江を往復し遠く露領との商業盛んにして冬時は商賈殊に四集すこの府及び寧古塔奉天府等内地の途上は冬月堅氷の候に至れば河川も總べて一様に平坦となり人馬氷上を渉るべく橋及び車馬の交通自由となり毎年十月より翌三月

清 韓 露 渡 航 案 内

に至るまで殆ど六ヶ月の間は車馬絡驛として貨物を運輸せり

○寧 古 塔 瑯 春

寧古塔瑯春と共に亦吉林省内の府城なり寧古塔は清の太祖の起りし處にして地は湖爾哈河に枕み周圍に柵を繞らし内に又二重の復柵ありて頗る要害の地たり

瑯春は寧古塔の東位に位し豆滿江を隔て、朝鮮咸鏡道の慶興と相對し以て日本海に出づべく又甚だ露領の浦塩斯徳と相距る遠からず蓋し滿州の東北部に在りて肝要の處とす

清 韓 露 渡 航 案 内

清韓露渡航案内

上海は江蘇省、松江府上海縣城の所在地にして楊子江口を
 沂ること四十八哩にして左折し吳淞江に入り又遡ること
 十三哩にして達す即ち黃浦（一名申江）と吳淞江と相會する
 處なり
 此地は現今實に清國各港中第一の繁華なる都會なれども
 従前は只邊海の一縣治に過ぎざりしなり地勢平衍四望山
 なく地河面の水平と均しきを以て卑濕を免れず其の上海
 の名は宋代に至り上海鎮を置けるに始まる蓋し地海の上
 洋に在るを以ての故なり
 市街を分ちて城内十六舖法租界、英租界、米租界の五區とす

清韓露渡航案内

城内は城牆をめぐらし七門を設く人家稠密殆んど隙地な
 く道路狹隘なり此の城内と十六舖とは支那人のみの居住
 地にして共に不潔甚し道台知縣等の官衙は皆此の内にあ
 り十六舖は城東に在りて商業繁盛なり
 上海は東洋第一の互市場にして居留地の体制もよく整へ
 り他の東洋諸港に於ける居留地は概して之に摸倣したる
 ものなるを以て外人特に上海を摸範居留地と呼べり三租
 界は内外人雜居の處にして通じて殆ど四英里餘に亘る家
 屋壯麗道路寬廣にして繁華清潔なり公園地は英領事館の
 側に設けられ居留外人皆往て共に遊ぶも獨り支那人は入
 るを得ず別に公園を設けらる此の地居民は十中の七八他
 省の移民に係るを以て人情風俗一ならず隨ひて言語も齊

清韓露渡航案内

音楚韻土語と混じて今日は一種の上海語を爲すに至れり
貿易は皆悉く外國居留地に於てのみ之を爲し其の取引は
多くは仲買又は周旋者に托して直接に爲すもの少し是れ
從來の習慣にて外人は却りて之れを便利とすといふ
氣候は地温帯に位せるも寒暖の變化急速なり冬夏の差は
二十五度より九十六度に至る(稀には百四五度に至ること
あり)夏時炎熱の最も堪ぬ難きことあるも偶ま數日間を過
ぎず而して十一、十二の兩月は概ね乾燥にして晴日多く夫
れより北東風吹き起れば乃ち寒氣凜烈たり
上海は古來より商業貿易の地にして極めて堅要の市場な
り故に兵備亦甚だ嚴重なり吳淞江口には洋面より斜に江
上に亘りて砲臺を築造し結構堅牢と稱せり是れ此の江口

清韓露渡航案内

は防禦線に在るを以てなり本港を距る凡そ一里半黃浦港
の左岸に江南機器局の設あり専ら兵器彈藥船艦等の製造
を爲し又龍華鎮に水電廠、銃包廠、火藥廠等を設けて分局と
す
上海は溝渠縱横に疏通し繁華なる大小の都邑其四周に在
るを以て船舶の往來常に絶ゆることなし陸路は道路狭き
に由り馬車人力車も遍く四方に通ずるを得ず只小車と稱
する一輪車あり能く小徑を走るべし又遠行には大抵舟路
に依る又橋子あり婦女子は多く之に乗るなり

楊子江

楊子江は亞細亞第一の大河にして西藏の東の斜原より發

清韓露渡航案内

し東南流して本部に入り更に東に流れて諸水を合せ遂に江岸頭に接近し得べきを以て凡そ揚子江を上下する船舶は皆爰に寄泊す地勢山岳多く江水渾濁なりと雖も縦横水利に富み所謂水陸の要衝を占む市街は長髮賊の亂後衰微して振色なしこの地に江寧(即南京)の門戸に當り兵略上最も必要の地にして古來南方事あれば必ず先づこの地争点となる往時未だ海路汽船の便なきときは南部より北清に向へる貢米の漕運皆此に湊り爲めに各處に軍隊を配置せり近年は河道も塞り又昔日の如くならざるも尙は多勢の八旗勇兵をして守備せしむ

清韓露渡航案内

○南京

南京は一に金陵又は建業と稱し今は之を江寧府といふ明の舊都なり地勢東南に山を負ひ西北江に臨み其城塔は明の太祖の築く所にして殊に宏壯なり南内外に軍器製造所あり又此地方は文學盛んに士人競ふて風流文雅を以て相誇り隨て人材頗る多し南京を距る南の方凡そ十二里(我が里數)に在り即ち古の姑蘇城にして亦揚子江に臨み岡陵を負ひ古來險要の地と稱す府の西北に采石磯あり江岸甚だ相迫れり是れ明の太祖の江南を征せしとき兵を渡せし處なり更に采石の西に梁山あり二山江流を挟み全岸共に砲臺を設けて江防の要害

○蕪湖

蕪湖は九江と鎮江との中間にして揚子江の東岸に在り運
 蘇省に至りて黄海に注ぐ江口は即ち崇明灣なり河幅茲に
 至りて凡そ十四里餘(我が里數)是より上流宜昌府に至る九
 百九十哩の内その中間の漢口に至るまでは千噸以上の大
 瀛船と雖も自由に航し得べく夫れより宜昌までは尙五六
 噸の小瀛船なれば四時共に往來自在なり
 宜昌より更に沂れば三峡の險あるを以て帆船にあらざれ
 ば航すべからず此の江夏季に至れば江水溢れて兩岸の地
 方を浸し爲めに沃土を注入し地味甚だ肥々作物能く豊熟

清韓露渡航案内

す江水は漕運と耕作に利あるのみならず亦兵略上極めて
 關係多く武昌漢陽の地の如きは其の最たり
 江は又水産に富み漢口の黃鶴樓梅花水に産する鯉魚の如
 き之を楚魚と呼び長け七八尺より一丈有餘に至るものあ
 りて最も有名なり

○九江

九江は江西省九江府德化縣に屬し揚子江南岸に臨める河
 港にして東西五里に女兒灣あり共に船舶を容るゝに足る
 府城の南三里半に廬山あり江を行くもの廬山を望めば景
 趣太だ好し市街は城内に在り往時は頗る繁盛の區なりし
 も長髮賊の亂後は荒涼たる一貧都に變せり氣候は夏初に

雨多く春初に降雪あれども地上に積むこと稀にして寒暑共に烈しからず

○鎮江

鎮江は上海を距ること百五十七哩にして揚子江の南岸に枕み大運河の會する處に在り港内水深く大船容易に河南西に通じ河船交通の咽喉を占む貿易は未だ甚だ盛んならざるも茶、絲の産地に近きを以て將來大に望ありとす港内碇泊所の良好なること鎮江に譲らむ商業繁盛の地なれども未だ外商の開店するもの多からず

清韓露渡航案内

○漢口

漢口は漢水の揚子江に會する處に位し武昌は長江(即ち揚子江)を隔て、相對し漢陽は漢水を夾んで相隣る三市鼎立して宛も鼎足の勢を爲し合稱して武漢と云ひ實に清國中部の大都會たり地勢山高く水深く水路四通八達す支那内地水運の通路半ば漢口に由ると謂ふも過稱にあらず漢口、武昌府漢陽府は共に市街繁華商業昌んにして漢口を最も盛とす居氏勤勉にして最も商機に敏なり漢口は古の夏口にして曹操の謂ゆる西夏口を望むとは即ち是れなり濟人は大概鴉片を嗜む此の地の如きは殊に甚しく今日は漸く茶葉と同じく客あれば必らず之れを羞むるを常とす

清韓露渡航案内

○宜昌

清韓露渡航案内

宜昌は楊子江の北岸に在り地勢西南平濶にして東北は山脈連亘せり市街は船戸舟子多く集り最も雜沓を極む此地は入蜀の咽喉にして中外貨物の蜀地若くは其近傍に往來する船皆此に停泊す故に税關の設けあり

百十八

○重慶

重慶は一名渝州又固陵と云ひ宜昌を距る六百六十英里長江と嘉陵江と相會する處にあり地勢山脉の東するものは激して三峽の險となり水流は城東に會して峽中に入る方に分輸せらるゝを以て天府の富勢この地に輻輳して更に四方に

清韓露渡航案内

甯波は浙江省の甬江口より十一里の上流にして浙東の門戸たり四面廣漠たる平野にして川流其間に布き風物蕭然たり昔阿部仲麿が三笠山の歌を詠じて故國の感慨を寄せたるは此所なり此地東部の大都會にして樞要の地たるを以て水陸の兵備また嚴重なり

○甯波

○温州

温州は浙江省甌江の南岸に位し江を溯る二十英里にして達す地勢平坦運河縱横に通じ尤も漕運に便なり市街は概して城内にあり街路清潔修繕周ねく至る蓋し支那地方に

百十九

清韓露渡航案内

稀なる所とす然れども開港既に久しき今日に至るも尙ほ
外人居留地の設なく電信の便未だ備らず到底商機に應ず
ること難く市場は漸く衰境に趣けり

○福州

福州は閩江の北岸にあり一名榕城といふ地勢は南方一帯
閩江に濱し山嶺東北西の三面を圍みて一大谷地を成す市
街は道路平坦ならず家屋矮陋なるも江流によりて内部の
諸府縣に通じ運輸交通兩ながら便なるを以て商賈盛んな
り
土民は夙に通商の利を知り又出で、四方に貿易する者多
し外人の居留地は南臺嶋の北岸にあり萬壽橋を架して福

清韓露渡航案内

州に連る貿易は茶を輸出の第一位とし鴉片を以て輸入の
首位とす其の他、綿布、毛布等ありて年々進歩するもの、如
し
氣候は温暖濕潤にして人体に宜しからず極寒も四十度を
下らず極暑は百度を越ぬ四時蚊蠅の絶ゆることなし

○廣東

廣東は廣東省府治の在る所にして東江、北江の合流たる珠
江口より上流三十里の北岸にあり江水深くして大船巨舶
を容るゝに足り南部諸港の重心たり殊に奇なるは河上の
船住者にして其船數凡そ六千余水上に年を送り河上春を
迎ふ真に別世界の觀あり外人居留地は府城の南なる沙基

にあり

○厦門

厦門は福建省に在り俗に之れを露嶋といふ東部に大嶋あり金門と云ふ其以北を圍頭灣とす本嶋は鎮海角圍頭の間なる大灣曲の北部にあり居留外人は鼓浪嶼に住宅を構ふ市街は悉く布石道なれども溝渠の設けなきに由り大雨に際して滿街水溢る商運は漸く發達し今や香港沙頭及び海峽諸殖民地の間に定期船を有するに至れり

○汕頭

汕頭は廣東省の韓河江の左岸にあり地勢東南海中に斗出

し灣曲をなす所の中央を本港とす本港外國貿易は其初め南澳嶋を市場と定めしが後ち汕頭の上流四英里なるダブル嶋に移せり氣候は中和にして寒暑頗る人身に適す

○各省地の異稱別名

各省地には本と自から一定の名稱あり然れども平常談話又は文字に記する等の場合に於ては往々異稱別名を用ふ即ち或は一地方の名を以て一省を呼ぶ例へば直隸を順天と呼び江蘇を蘇州と呼ぶの類是れなり其概略に通せざれば談話並に覽讀の際甚だ不便を免れず平常慣用さるゝものを舉示すれば左の如し

直隸を 燕京、蘇州、順天、保定、北京、天津と云ふ

清韓露渡航案内

清韓露渡航案内

清韓露渡航案内

南京を 江南、南甘、白門、白下、江寧、秦淮と云ふ
 山東を 濟南、齊魯、山左と云ふ
 江蘇を 姑蘇、蘇州、吳、虎、邱と云ふ
 山西を 太原、晉、雁門と云ふ
 臺灣を 臺北と云ふ
 陝西を 西京、長安、咸陽、秦、西安、終南と云ふ
 浙江を 上抗、餘抗、西湖、杭州、浙越と云ふ
 甘肅を 甘涼、玉門と云ふ
 福建を 南臺、閩と云ふ
 新疆を 伊犁、回疆、天山と云ふ
 江西を 南昌、豫章と云ふ
 四川を 西川、蜀、成都、蓉城、棧道、峽門と云ふ

清韓露渡航案内

廣東を 廣州、東興、珠江、嶺南と云ふ
 雲南を 滇地、滇、麗江と云ふ
 安徽を 安慶、淮南、皖と云ふ
 貴州を 貴陽、黔、苗疆と云ふ
 河南を 京東、汴、梁、開封、豫と云ふ
 湖北を 武昌、江夏、楚、郢都、楚荆と云ふ
 關東を 盛京、遼東、奉天と云ふ
 湖南を 長沙、星沙、湘と云ふ
 上海を 上洋、中、江、滬、尾と云ふ
 廣西を 桂林、西粵と云ふ
 楊州を 維揚と云ふ
 漢口を 漢鎮、漢泉と云ふ

〇二十五港總表

現今支那に於ける公開貿易港は總數二十五なり

清韓露渡航案内

港名	管轄	開港年月
上海	江蘇省松江府上海縣	道光二十二年、千八百四十三年
漢口	湖北省漢陽府漢陽縣	千八百六十一年
天津	直隸省天津府	咸豐十年、千八百五十八年
廣東	廣東省廣東府	道光二十一年、千八百四十三年
福州	福建省福州府	道光二十二年、千八百四十三年
寧波	浙江省寧波府	同上

清韓露渡航案内

重慶	四川省重慶府	光緒十七年、千八百九十一年
九江	江西省九江府	咸豐十年、千八百五十八年
蕪湖	安徽省太平府	千八百七十六年
鎮江	江蘇省鎮江府	咸豐十年、千八百五十六年
宜昌	湖北省宜昌府	千八百七十八年
芝罘	山東省登州府福山縣	咸豐十年、千八百五十八年
牛莊	盛京省奉天府海城縣	同上
温州	浙江省温州府	千八百七十六年
廈門	福建省漳州府同安縣	道光二十二年、千八百四十三年
汕頭	廣東省澄州府澄海縣	同上
九龍	同廣州府新安縣	千八百七十六年
北海	同廉州府合浦縣	同上

清韓露渡航案内

瓊州府	同	瓊州府	同上	百二十八
龍州	廣西	廣西	同上	千八百八十九年
蒙自縣	雲南省臨安府蒙自縣	雲南省	同上	千八百八十六年

○電報及電信

上海に於ける支那電報局は大北及び大東の二電信會社と並に同一家屋内にありて電務を執る故に内外電報と交換して最も便利なり歐一語の電報料は清一語より高しと雖も全用上より寧ろ歐語は廉なりとす又羅馬語を以て日本語を綴り十個子母字の範圍内に於て巧に電話を編成するは便にして且つ利なれども電報規則の許さざる所と知る

清韓露渡航案内

べし
電話は上海に一あるのみ其社は倫敦電話會社の支社にして支那日本電話會社と稱す點燈料は一ヶ年五十兩にして各租界の公衙諸會社銀行を首め重なる商店醫師等は大抵其線を引かざるなし

○汽船及汽船會社

支那に於ける汽船の航區は大別して支那沿海長江沿岸及び日清間の三線路となす而して各航區を通航する汽船及び汽船會社は夥多あれども概して外國人の營業に屬し全く支那の所有に係るは唯一の招商局あるのみ

清韓露渡航案内

其第一は中央線にして日本横濱より上海に航し更に揚子江を溯り鎮江、蕪湖、九江、漢江、宜昌を経て重慶に止る第二は北方線にして日本長崎より朝鮮釜山仁川を経て芝罘に至り天津に達し陸路或は水路に依り北京に至て止る又南方線は長崎より香港に航し廣東汕頭厦門、福州寧波を経て上海に出づ是を各港三航路とす

○日本より支那各港に至る三航路

○棧房及び埠頭

支那は大概氣候良からず貨物を貯蔵すること極めて困難にして就中夏初秋末に際し霖雨連旬止まざる時の如きは殊に貨物を破損するの恐あるを以て著名なる各港には必ず棧房の設けあり一般貨主の依頼に應じ之れを賃貸して貨物を貯蔵せしむる所とすこれは棧房會社の所有に屬す其倉敷料は貨物の着埠後十日間は無料にして之れを過れば始めて定規の料を収む

清韓露渡航案内

埠頭は我國の棧橋にして二種の構造あり一は固定埠頭に於て他は躉船埠頭なり固定埠頭は普通の棧橋なれども躉船埠頭は我が國になく宛かも浮梁の如きものなり而して長江沿岸の各港は皆此躉船埠頭なり上海其他大開港場には埠頭倉庫會社ありて之れを汽船に賃貸す

○貨幣

清韓露渡航案内

目今支那各地に行はるゝ貨幣の種類は大別して錢、洋銀の二種となす而して洋銀即ち外國銀貨は其通用開港場に限り廣く内地に通用せず銀兩は一般に通用するも本位通貨にあらざるを以て唯だ物品たる性質を以て授受せらるゝものなり制貨は即ち銅錢の一あるのみ銅錢は官設造幣局ありて之れを製造す又民間にて私造するものあり私錢と稱して日常の通用に支障なし銀兩の如きも皆民間にて私鑄するものなり

凡そ錢は圓形にして中に方孔を穿ち其表面は鑄造年號と通寶の二字を刻文し裏面には滿州字を以て鑄造局名を印記す制錢とは即ち官定通用錢の義にして普ねく一般に使用せらるゝ通貨なり其他民間に私錢あるも概して錢は一

清韓露渡航案内

個一文とし其四十九文を以て五十文に算し九十八文を以て百文に算し九百八十文を以て一申文となすなり又之を銀兩及び洋銀貨に比算するに銅貨千三百文乃至千六百文内外を以て銀一兩に當て其一千文内外を以て洋銀一兩に當て其一千文内外を以て洋銀一元に當つるを例とす而して其數の確定せざるは制私各錢稍々其制を異にし隨て重量も亦相同じからざるに由る又日本の寛永通寶等は之を紅錢と云ひ一般通用に妨なし

銀兩は本と制貨にあらず唯だ銅錢に對して其通用を補助する所の貴重品なる性質のみ洋人は之を稱して丁留と云ふ形質大小種々ありて殆ど判別すべからずと雖も概して之れを小銀、中錠、元寶の三大種類に區別するを得べし

清韓露渡航案内

小銀は一塊五兩内外の銀兩にして尙ほ碎銀なるものあり
所用に應じて適意に之を切斷して使用するものなり
中銀は一塊十兩内外又元寶は一塊五十兩に相當する銀兩
にして其形ち馬蹄の如くなるを以て一に之を馬蹄銀と稱
す而して銀の一兩は我十匁に當り其十分の一を以て一錢
とす
洋銀貨即ち外國銀貨は現今支那各國港場に於て行はるゝ
のみにして支那にては之を洋塊或は洋錢と稱し内地に於
ては則ち之を銀兩に比し重量を檢し唯普通の物品的に之
を授受するの有様なり
又其各港に通用する部分の洋貨は墨其斯哥弗にして西班
牙銀は之を本洋と稱して其歩合稍高し其他小銀貨は小洋

清韓露渡航案内

錢と唱へ香港製のもの及び日本製五錢、十錢、二十錢等の補
助銀貨行はる

○度量衡

度に營造尺、律尺、裁衣尺の三種あり權衡は秤、平、戥の三種を
官平とし外に市平、錢法平の二種あり度は黍一粒の縦を一
分とし分寸尺丈引の五度ありて共に十進法を用ふること
は猶ほ我國の制度の如し然れども實際之を用ふる所にて
は度分甚だ錯雜して各種一定のものあるなく沿岸其他二
三地方に於てすらも尺度の種類八十餘種の多きに及び其
長短不同の差は六「インチ」以上の長さに達す
今内地貿易の中心たる漢口地方に用ひらるゝ尺度の種類

清韓露渡航案内

を察するに廣東尺と云ひ大工尺と云ひ算盤尺と云ひ反物を
 店尺と云ひ裁縫尺と云ひ綢緞尺と云ひ其他尙ほ數種あり
 權衡は物を量るに九種の名稱を以てするも今は大小を以
 て稱呼を異にするに至れり俗に大なるものを大秤と云ひ
 遊動錘を用ふるものを錘と云ひ又大平と稱するものあり
 多く金銀を量るに用ふ其量目毫厘(十毫)錢(十厘)兩(十錢)の四
 種とす平も亦種類多しと雖も概して關秤及び關平を標準
 とす
 又戥は我國の所謂「チキリ」にして其小なるは長さ八九寸の
 ものあり最も旅行に輕便にして金銀鴉片を衡るに用ふ更
 に又行秤と稱するものあり現今外國人等が各港貿易に用
 ふる所のものにして近時の製作に係り支那秤の諸種を折

清韓露渡航案内

衷したるものなりといふ左に最も我國輸出品に關係ある
 漢口の通用秤を列擧すれば
 錢平 即ち諸秤の標準にして其百斤は我九十五斤
 に當る
 浙甯秤 一に甯波秤とも云ふ海產物藥種雜貨等の取
 引に用ふ其百斤は錢平の百〇五斤にして我
 百斤に同じ
 加平 加一平とも云ふ一割増の義なり
 曹平 官定秤なり
 外に公議秤と稱する一種あり

○郵便

清韓露渡航案内

支那に郵便の制はあれども所謂驛站里甲馬即ち官郵の舊制なり然れども唯一切の官信を遞傳するのみにして普通民間の用を爲さず其普通の郵便とも稱すべきは民間の私設に係る信局の事業なり又各開港場に至れば工部局便及び税關郵便なるものあり又各國の郵便局あり内外及び各港間を聯絡す
信局は民間私設の郵便業にして其數極めて多く各自に一定の線路を有す而して信局遞送方法は普通の郵便と異るは勿論なりと雖も殊に最も奇とすべきは賃金を収むるの習慣なり
凡そ信書を信局に托するには別に切手を貼附するにあらざり又發信者は信局に對して賃金を拂ふにもあらず而して

清韓露渡航案内

信局は其信書を受る者即ち先方の名宛の人より賃金を収むる習慣なるが故に概して遺失なく先方に達すと云ふ即ち之を送達せざれば賃金を得る能はざればなり
又其賃金は酒力と稱し封書の大小輕重に拘はらず送達地の遠近都鄙に由るものとす然れども大抵一斤に對して少きは三百文多きも七百文に過ぎず獨り書留郵便とも云ふが如きは酒力之れに倍すといふ
此外各地に飛脚を業とするものあり其世人に信用せらるゝの度は却て信局に勝るの状あり飛脚にも亦普通と特別の二類あり普通飛脚は唯書信物件を送致するに止り別に時日に定限なきも其特別飛脚なるものに至ては時日を限りて送達するものなり

清韓露渡航案内

北部諸省には標局馬信と稱する一種の飛脚にして一日に急行數百清里を馳するものあり南部地方には斯るものなしと雖も特に急使を要する時は尙ほ日に二百清里を行くものあり其賃銀は大抵一日一兩の割合なり又票號にても信局と同じく通信事務を取扱ふことあり

○電信

支那政府が歐米文明の利器を採用し最も長足の進歩をなしたるは新事業の重なるもの電信にして全國到る所として通せざるなし然れども支那の電線は主として政事上及び軍事上の目的より成れり故に之を使用する政府獨り之れを専らにし其民俗の如きは之が使用を許さるゝの地あり

清韓露渡航案内

り又或は之を許すも時宜に由り其使用を停むるの時あり唯大北電信會社及び東方擴張會社の所屬線のみは何時にても使用し得らるゝなり

○清國旅行者の注意

清國內地を旅行せんとするものは先づ其發程せんとする開港地駐劄の帝國領事館に至り護照即ち支那内地旅行免狀の下附を請ふて然る後行を發し至る處通路の地方衙門を訪ひ右の護照を示して其保護を請へば最も安全にして便益を蒙る事甚だ尠なからず
日々の行程は早朝出發前に豫じめ其日の宿泊地を定め置き成るべく早く宿に就くを宜しとす日没後城市に至れば

清韓露渡航案内

城門を閉塞するの慣例あり最も注意すべき事とす
船局或は運脚行等の運送問屋に就き人夫車馬橋船等を雇
入る場合は必ず行先及び雇入れしもの種類員數等を明
記せし約束切符を受取る可し途中人夫等の不法強請貨物
の不足破損等間違なき爲めの用意なり
荷物の多き人は自ら先きに行李の点数を定め其番號によ
つて包装を明記せる書き付けを調へ置き(支那書式にて)各
地發着積替へ等の際是以て人夫と旅舎との對照受授な
さしむ可し共に責任あるを以て途中紛失等の恐れ甚だ稀
れなり
所持の通貨は可成零碎の銀塊を宜しとす圓銀は假令支
那政府の機器局鑄造の刻印あるものと雖も携帶すべから

清韓露渡航案内

す寒村僻地通用せざるを以てなり然れども若し都合上圓
銀携帶の場合には成るべく墨銀に限り携ふ事とすべし銀
票は携帶に便なるも地方によつて不通の個所あるを以て
却て尠なからざる困難あり銅錢即ち一錢厘は全省唯一の
融通貨幣なるを以て必ず常に二三千文位は不斷携帶す
ること必要なり
旅舎の支拂は成べく出發前に於てす可し其際宿賃以外に
水錢なるものを給與するの習慣は日本に於ける茶代と同
一なり鐵道によつて長途の旅行をなさんとするものは必
らず食料携帶の用意あるべし各驛共に口に適する飲食物
賣捌人の設けなきを以てなり
旅行用具に至ては各其人によつて取捨異なる可きものあ

清韓露渡航案内

りと雖もろの必要を感じずるものを舉ぐれば皮箱(所謂支那カバンにして成るべく堅牢なるもの)毛布三四枚蚊帳帆木綿製夜具包風呂敷着替雨具シャツジボン靴下手袋手拭剪刀鉛筆手帳日記名刺狀紙筆墨硯懷中時計磁石巻尺石鹼西洋蠟燭燐寸巻煙草茶食鹽砂糖ビスケット萬福罐詰寶丹精琦水晒木綿便桶(大便器にして南清旅行には多く必要なり)便壺(日本の所謂しびんにして北清殊に滿州地方には必要なり)

○清國郵便稅率

内國

市内稅率 I 同一地方及其附近方鎮に往復する郵便物但し

清韓露渡航案内

其名稱は郵便局に就き知るべし
市外稅率 II 郵政局により前記以外の内國各地に往復する郵便物

外國

香港稅率 III 各郵便局と香港又澳門膠州(青嶋)旅順口及廣州灣との間に往復する郵便物

聯合稅率 IV 各郵政局と各聯合國との間に往復する郵便物は差出人又は受取人の負擔を以て民信局の手より送達すべし

A 郵便料の全額を必らず前納すべし

B 書留と爲さいるときは郵便料金の前納を隨意とす
但し料金を未納若くは料金の不足の郵便物は受取人より

清韓露渡航案内

其未納又は不足額の二倍を徴収すべし

C 抄くとも郵便料の一部を前納すべし

D 重量は四ポンドニキログラム寸尺は長二呎幅厚各一呎を超過するを得ず

E 重量は三百六十グラム寸尺は長十二吋幅八吋厚四吋を

物物体は長十二吋直徑六吋を超過するを得ず

G 封緘して検査するを得ざるときは書状と同一の料金を徴収せらる可し

H 寸尺の一面各二フット重量は二十二ポントを超過するを得ず

但し内地に發送する分は五ポント及一立方フットを限りとす

清韓露渡航案内

I 内地を往復する信書の書留料は二倍とす

小包は保険金額百分の一の割合に於て保険することを得但し其最小料拾仙とす

右手敷料は必前納すべし

代金引換小包郵送物とは小包郵送を受取るとき受取

人に於て其代金を引受郵便局に支拂ふべきものにし

て引換金額百分の二の手数料を拂ひ各郵便局所在地

に發送することを得

郵便爲替證書一枚の金額は十弗を超過するを得ず爲

替料金及爲替を取扱ふ郵便局の名稱は郵便局に就き

知るべし
通貨郵便切手を賣渡すときは何れの郵便局に於ても

内案航渡露韓清

百四十八
 圓銀及小銀貨に其額面の金額を以て受取るべし各郵政局に於て銅錢を受取るときは五厘切手を五文一仙切手を十文一元切手を一千文の割合にて計算すべし

○國都北京を距る里程及面積表

省名	面積	北京を距る里程	
		南	西
直隸	一六、八六三 <small>(方里)</small>	三七一 <small>(里)</small>	
江蘇	八、九九四	三二四	
安徽	一二、〇九五	一一六	
山東	一二、〇四六		一三九 <small>(里)</small>
山西	一四、七七七		

内案航渡露韓清

河	南	一四、九九三		一七九
陝	西	一〇、一九二		二九三
甘	肅	五八、一四九		四六〇
福	建	一〇、二五〇	五七三	
浙	江	七、九九〇	三六九	
江	西	一五、四三二		三九五
湖	北	一五、五六三		三四〇
湖	南	一八、六四五		四四二
四	川	四二、四五一		五七四
廣	東	二二、二四九		六七一
廣	西	一八、一九四		五七〇
雲	南	三七、四五三		七二八

清韓露渡航案内

本部支那は所謂禹域九州の地現今清帝の直轄に屬するを以て又稱して直省と爲す北緯十八度二十分に起り五十三度に至り東經七十四度に發して百三十四度に達す滿州蒙古を北にし西藏緬甸を西にし東南海に面して南西安南に隣る

本領域内分て十八省となし省の下に府あり府の下に州縣應あり凡そ全國十八省を通じて府たるもの百八十州たるもの七十六縣たるもの千二百二十九州廳たるもの百四十一而して廳は極めて少數なり

露西亞の部

○西比利亞

西比利亞は亞細亞の北部を占め廣大なる區域に亘り本方の西方に當り支那朝鮮の北方に位せり、

其境界北は北氷洋に面し西はウラル山脉によりて歐羅巴露西亞に接し東はベーリング海峡を隔て、北亞米利加のアラスカに對し又オコック海日本海に臨みて本邦に對し南は圖們江を以て朝鮮に接し興凱湖、烏蘇利、黑龍江、額爾古納の三河を以て滿州に接し阿爾泰山系及びサヤン山脉にして蒙古に接し又露領中亞細亞の曠原及西土耳其斯坦に接す北は北緯七十八度二十分なるセヴゼコロ岬の北端に

清韓露渡航案内

清韓露渡航案内

起り南は北緯四十六度なるトムスク州の南隅に至り西は東徑六十度なるトボルスク州の南西隅より起り東はベリリング海峡の口を扼し西徑十度の處に位する東岬に至る南北は緯度三十二度凡そ九百里東西は徑度百三十度其最大の幅凡そ千七百里あり面積は八十一万餘方里にして凡そ我國の三十倍に當り支那の面積七十萬餘方里より少しく大なり

○西部西比利亞

- 一 トボルスク省
- 二 トムスク省

又行政上東部西比利亞西部西比利亞黒龍江地方に三大別し更に八省に分ち別に樺太嶋を黒龍江地方に附す

清韓露渡航案内

○東部西比利亞

- 三 イルクーツク省
- 四 トランスバイカリア洲
- 五 ヤクーツク州
- 六 エニセイスク省

○黒龍江地方

- 七 黒龍江州
- 八 沿海州

附樺太嶋

黒龍江州は首府をブラゴウエヌチエンスク府とす黒龍江の岸に位し黒龍江往復汽船航路の中心に當り市街繁盛な

り此府とチルチンスク間にアルバジンあり支那人は之を
雅克薩と稱す露清の古戰場なり沿海州にては浦蘆斯德府
は其首府なり

○浦蘆斯德

内案航渡露韓清

露國東鎮の義を有する浦蘆斯德は支那滿州の一部に屬し
たる所領地なりしが千八百六十年に於て露國海軍の遠征
の爲めに占領せらるゝに至れり此の地の形勢は軍事上の
須要のみならず商業上の焼点となりて長足の進歩を爲す
に至れり
此港灣は黒龍州の一部なる彼復大帝灣に突出するムラウ
イヨースアムールスキ一半嶋の南端にありて一名を金角

内案航渡露韓清

港と稱し北緯四十三度六分五十一秒東徑百三十一度五十
四分廿一秒に位し港灣は最も安全にして東西南の三面は
悉皆三百呎乃至七百呎の連山によりて直接に圍繞せられ
港口はルスキー嶋に扼せらるゝを以て風伯の犯す憂ひな
く加ふるに港灣深くして殆んど沿岸に直接して大艦巨舶
を碇泊し得べく港口亦た廣くして約千八百呎ありて半靴
的の形狀をなし東西に長く一万四千九百五十尺に達し南
北の廣さ二千八百尺に至るを以て四五千噸の船舶六十艘
を一時に碇泊し得べし然れども不幸にして氣候互寒の爲
め冬時凍氷の障害あり
本港市街の地勢は我國神戸港に類似し山脈近く海岸に切
迫せるを以て沿岸平地甚だ少く僅かに海岸に沿ひて長く

清韓露渡航案内

市街を建設せるを以て其延長四露里に達し就中東部にありては低き丘陵及び淺き鷺谷の相接續するを以て街區甚だ均一ならず從て建築物の如きも或る者は高く丘陵の半腹にありて或る者は低く街路の下に位置するを見るニコライ門はアドミラル埠頭に近く博物館は市の中央に位し市街を東部西部に區別せりスウエトランスカヤ街は主街にして東西に通じ海岸に直接せるを以て稱して海岸通りとも言ふ可く諸官衙中海兵團海軍俱樂部海軍參謀局浦港知港事官舎裁判所病院船渠等皆此主街の東部にありて商店中盛大なるアルベリス、チュウリン、ランゲリーチ、永和棧、同利等各一等商店及び露國セヴリョーフ汽船會社は此主街の西部にありて其より北方山腹に向ひ廣濶なる數條の

清韓露渡航案内

街路を以て市街を連續せり

○浦塩と汽車

(問) 浦塩の交通機關は如何

(答) 市内交通機關は馬車ニコライ門は浦港市を東西二區に分ち一區内其距離の遠近に係らず二十哥一步だも二區に跨る時は四十哥一時間の賃金は八十哥とす四輛の幌馬車走行甚だ速くして且つ清潔なり此等は皆露人の專業にして西比利亞の肥馬多くは二頭にて引く

市内の運輸は朝鮮人の負擔にして運搬するの狀は朝鮮各開港に於けると同一にしてカウーリと言ふ

清韓露渡航案内

(問) 解船は如何

(答) 港内解船の業は支那人の専業にして構造は質朴なるも却て堅固なり行くこと遅きが如くにして速かなるは此船の特色なり海軍參謀局の埠頭は港灣二分區の目標一區内は片道晝十哥夜間は二倍舟程の遠近を問はず二區に跨れば一區の倍額とす一時間の雇賃僅かに三十哥夜間は五十哥とすれども割増はあるべし

(問) 旅舎は如何

(答) 旅舎はウラジホストツク、モスクワ、ゾロドイ、ロツク、ホテル、デシエ等の數軒あれども狹隘にして割烹は粗惡と言はんより却て質朴と言ふべし一餐一留内外室料一日七十哥乃至二留とす

清韓露渡航案内

(問) 道路は如何

(答) スウエトランス、カヤ或はアレウイトスカヤ等の如き主道は皆廣くして七間乃至十間中央を馬車道とし兩側の板道は幅一間許り降雨泥濘の際も甚だ清潔なり

(問) 井戸は有りや

(答) 浦港市廳の所有に屬したる掘井戸は市内の要處に多くして現時殆んど四十井皆な飲用に適し使用の權は請負によりて露人某の専有に販し支那人は彼に向ひて用水税を拂ひ石油バケツを以て各戸に給水すその賃金は一日滿水八個を運び來りて一ヶ月間二留とす

(問) 遊覽の主なるものは何なりや

(答) アスコリド嶋に麋鹿を放養するは紳士の結合より成

清韓露渡航案内

る遊獵會にして極めて活潑なる娛樂とす又冬時浦港氷凍の際氷江亦盛んに行はる

(問)(答)

浦港に上陸して人々の注目を惹くは何物なりや
橋通りに嚴然として建てる異様の大門あり是れ明治二十四年五月ニコラス皇太子(今の皇帝が)日本より來着の時歡迎の爲め市民の設けたるものにして尼古拉斯門と名く煉瓦を以て積み上げたる四脚より成り中央の上部に綠色に彩どりたる尖塔を置き高く天を衝く

(問)(答)

浦港嚴冬の有様を問ふ
氣候の暑寒共に嚴酷なるは世人の既に知る所にして

清韓露渡航案内

特に寒威の凜烈なることは最も甚し是れ全く亞細亞の海性氣候を缺く地方に接するが故なり冬期に至れば寒氣強き北部及び北西の風吹き天氣は片雲を留めざることも多く大氣の乾燥は此節を以て極度とす煙草は細末となりて木材は収縮し家具は概ね罅隙を生ず降雪は至て少く然れども吹雪の時は雪を道路の一方に吹き集め雪壘を築くことあり方言「ブルガール」(雪嵐)と稱する冬期の暴風は十月後に至れば早く既に至り十二月及一月を以て最も威を逞ふす寒氣は華氏零下二十八度七五(列氏零下二十七度)の烈寒に沈降することあり

(問) 浦港にて犬の橋を曳く有様を問ふ

清韓露渡航案内

(答) 當港は寒地の常として犬頗る多く且つ其体甚だ大なり冬期橋を曳く犬は其体著しく大ならざれども性質敏捷にして五疋乃至七疋を以て一車に人を乗せ之を曳く而して其法一疋先頭にありて導をなせば他犬は二列をなし後に従ひて進むこと妙なり其中巨大の犬は熊を欺くものあり

(問) 浦港附近及西伯利内地の動植物は如何

(答) 西伯利内地の平原は次第に内地に進行するに従ひ一望際涯なき太平洋なりと雖も浦港附近にては平夷なる小丘多く一阪を昇り且つ降るものなり道の兩側には異様の雜草人肩を没するまでに繁茂し或は滿目の白花體々として雪を欺く所あり凡そ西伯利亞にて植

清韓露渡航案内

(問) 風呂屋は有りや

(答) 露風の浴場あり價一留我が邦の蒸風呂の類なり日本的風呂屋は價十哥にて甚だ輕便なり板の間稼ぎは甚だ流行して露人支那人に多しといふ

物の發生界は北緯五十六度半以南を限りとし其以北に至れば凍氷帯に屬し青物とては夏期僅かに蘇苔の數種あるに過ぎざれども浦港附近までは一体に森林多く其密茂せし時は樹々相摩して林火を生ずることありしと云ふ然れども近來は人口の増加及鐵道工事等の爲め濫伐行はれ巨大の喬木は稀にして森林と雖も凡そ二丈以内の雜木なり此森林中には豺狼狐麋鹿黑貂等極めて多し

清韓露渡航案内

(問)(答)

浦港鐵道停車場の有様如何

浦港鐵道停車場は現時完成しつゝある西比利亞大鐵道中已成部分に於ける鐵道停車場中規模偉大にして地位の最も良好なるは勿論基點停車場なるを以て自ら他に異なる處の者あり其建築物の莊大なるは軍事裁判所海軍俱樂部ニコライ寺院アルベリス商店等と共に屈指の一と稱せらる蓋し此浦港停車場はアレウトスカヤ街の南端にありて前に廣き廣地を扣へ後は深き港灣義勇艦隊埠頭に近く其後部には五呎廣軌の鐵路は場内十數條能く聯絡を保ちて近く埠頭に至り汽罐車倉庫に入る者列車の倉庫に隠る者給水装置の下を過る者工事場に達する者等ありて交互回避の線

清韓露渡航案内

(問)(答)

路に至る迄皆な「プラットホーム」の東方灣岸に縦設せられ其れより北方にアレウトスカヤ街州廳の裏面を通過して長く北行する幹線は即ち是れ浦港より内地に至る西比利亞大鐵道なり

場内の酒舖は如何

場内待合の廣室には鐵道廳より一年八百留の保護金を享有したる露人某の主管する清潔なる酒舖ありて能く乗客に便宜を興ふ

(問)(答)

西比利亞旅行中の光景如何

西比利亞旅行の第一區なる延長千四百キロメートルに亘る西部西比利鐵道を通過する間は人目に映する光景大抵同一にして二三日間の旅行中線路は絶えず

清韓露渡航案内

肥沃なる平野を通し唯だトボル、イシム、イルツイ
 ツユ及びオビの諸河を通過する際に多少の變態を呈
 するのみ
 貝加爾湖驛即ち貝加爾湖の西岸まで莫斯科を發せし
 列車來り此處にて湖水に浮べる破冰船に轉乗す破冰
 船は列車の着せる棧橋に横付せられ旅客は客車より
 直に汽船に乗り換ることを得るなり
 貝加爾の渡航は西岸出帆後東岸なる波止場と稱する
 處に着す此處より船側に横はれる列車に乗換るなり
 此の列車はタリニより來れる東清鐵道の列車なり
 東清鐵道の客車は總て新式新調のものなるを以て奇
 麗にして且つ便利なり

清韓露渡航案内

貝加爾湖を渡つて列車は東清鐵道の烏拉蓋線と分岐
 する哈爾濱驛に着す
 又貝加爾湖以東西比利線路の貫通する地方は後貝加
 爾にして其南部の地方をダウーリヤと言ふ南ダウー
 リヤの原野は蒼穹の地平線に垂接して豁然たる一帯
 の連山横はる處は宛も天地を連絡する青玉紫玉の鏈
 鎖の如しとは是れ西比利の地理に明かなる人が後貝
 加爾の南方地方を形容したる語なり南部東方の氣風
 を示す蒙古の喇嘛教院雙背を有する駱駝西藏地方と
 の間に時々往來する猛虎等孰も右地方にして熱帯地
 方の觀を呈せざるはなし而れども是唯だ夏期に於て
 のみ然るなり冬期に至れば大陸の冷氣凜烈にして數

清韓露渡航案内

月間は全く堅氷を以て蔽はる
 烏蘇利河の黒龍江に注入する所に在るハハロフスク
 と黒龍江線路の中央に當るブラゴウエシチエンスク
 間の地域は黒龍地方に在りて唯一の要地とす此地方
 は支那滿州の嶮山連亘すると雖も唯ヒンガン山の支
 那境界の山脈に連続する處のブラゴウエシチエンス
 ク近傍に峻嶺の全く閉鎖せざる處ありて此一地方の
 みは温暖なる南風吹き來るにより其氣候稍温和なり
 と云ふ

○浦汐斯德より哈巴羅府に至る

烏蘇里鐵道各停車場間里程表

(露の一ウヨルスト即ち一露里は我九町四
 十三間二尺に當る)

地名	里數 (露里)
浦 潮 斯 德	○
ナ デイ ジ ャ ン ス カ ヤ	四二
ア ラ ズ ド リ ノ エ	二四
ニ コ リ ス コ エ	三六
ネ ヲ エ ー リ ス カ ヤ	四四
チ エ ル ニ ー ゴ フ カ	三九
ス バ ー ス カ ヤ	三九
ス ウ イ ヤ ー ギ ナ	三二
シ マ コ フ カ	三六

清韓露渡航案内

清韓露渡航案内

ウスリー	三五
プロハスカ	二二
ムラビョッフアムールスキー	二八
イイマン	一〇
クルシユモーフ	三三
ポチャローフ	四四
ピキン	三四
ローセンガルトーフ	二九
イロワイスカヤ	四八
ウヤゼムスカヤ	二一
ドルミドントーフヤ	三〇
ゾポーフスカヤ	二六

清韓露渡航案内

カルホトフスカヤ	二八
ハソロフカ	三五
合里程	七一五

○滿州鐵道里程表

旅順口より哈爾濱に至る各停車場間里程

地名	里數(露里)
旅順口 (露名ホルツアルツール)	〇
迎子城	二七
南關嶺	一八
大身方	一二
金州	四

清韓露渡航案內

沙_シ奉_フ虎_コ新_{シン}鐵_{テツ}關_{カン}昌_{チャ}雙_{シュウ}四_シ郭_{クワ}公_{コウ}范_{ファン}
 石_シ臺_{タイ}子_シ嶺_{リョウ}原_{ゲン}府_フ子_シ街_{ケイ}店_{テン}靈_{レイ}屯_{トン}
 河_カ天_{テン}臺_{タイ}子_シ嶺_{リョウ}原_{ゲン}府_フ子_シ街_{ケイ}店_{テン}靈_{レイ}屯_{トン}

(一名ムクデン)

一六 二六 一八 二一 二五 三一 二九 二四 二六 二五 二六 二九

清韓露渡航案內

三_{サン}浦_ポ瓦_ワ花_カ王_ウ熊_{クマ}蓋_{ガイ}大_{ダイ}海_{カイ}矮_{タイ}遼_{リョウ}煙_{エン}
 里_リ蘭_{ラン}房_フ紅_{コウ}家_カ岳_{ツツ}石_シ山_{サン}
 堡_ボ甸_{テン}站_{テン}溝_{コウ}林_{リン}城_{シヨウ}平_{ヘイ}橋_{キョウ}城_{シヨウ}莊_{シヨウ}陽_{ヤウ}臺_{タイ}

二二 二〇 二六 一八 二一 二九 〇 二八 三〇 二九 二八 二一

清韓露渡航案内

齊	烟	小	喇	薩	安	宋	滿	對	哈
々	筒	蒿	嗎	勒				青	爾
爾	屯	子	子	圖	達		溝	山	賓

地名

哈爾濱より滿州里に至る各停車場間里程

二八	二七	二九	二一	三〇	二九	三〇	三〇	二九	〇
----	----	----	----	----	----	----	----	----	---

里數(露里)

清韓露渡航案内

哈	江	五	雙	蔡	石	陶	驛	烏	沒	寬
爾			城	家	頭	賴	馬	海	沙	城
賓	沿	家	堡	溝	子	照	河	河	子	子

合里程

九	一	一	六	二	五	一	七	一	七	三	七	一	七	二	八	二	五	三	〇
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

清韓露渡航案内

旅順 營口 土城子 雙溝 營子 後各鎮 三千里 毛家營 金州 五里堡

旅順より普蘭に至る各驛間里程(金州通過)

日本里町

百七十八

○
 一、二〇、二分ノ一
 一、二五、二分ノ一
 三、二〇、二分ノ一
 一、一五、二分ノ一
 二、五、
 二、五、
 二、三〇、二分ノ一
 一、二五、二分ノ一
 三、

清韓露渡航案内

石河 張林 普蘭 普蘭 馬圈 茫屯 復州

普蘭より復州に至る各驛間里程

日本里町

普蘭より娘々宮に至る各驛間里程

百七十九

○
 一、一五
 一、一五
 二、三〇、二分ノ二
 二、九、二三、二分ノ一
 合 計
 八、一二、二分ノ一
 一、五、
 二、二五、二分ノ一
 一、二、三〇、二分ノ一

清韓露渡航案内

清韓露渡航案内

日本里町

○

三、二五、二分ノ一

二、三〇、二分ノ一

二、二五、二分ノ一

三、二五、二分ノ一

三、二〇、二分ノ一

娘々宮より莫家屯に至る各驛間里程

日本里町

○

七、三〇、二分ノ二

五、五、

普^フ 老^ラ 抱^{ハク} 餘^イ 高^カ 娘^{ニヤン}
 爺^ヤ 臺^{ダイ} 家^カ 二^ニ 城^{シヤン} 子^シ 宮^{クワン}
 廟^{ミヤウ} 子^シ 屯^{トン} 子^シ 宮^{クワン}

李^リ 二^ニ 頭^{トウ} 熊^{クマ} 莫^モ
 家^カ 臺^{ダイ} 臺^{ダイ} 岳^{ツツ} 家^カ
 村^{ツム} 子^シ 子^シ 城^{シヤン} 屯^{トン}

合計

莫家屯より蓋平に至る各驛間里程

日本里町

五、二五、二分ノ一

二、一〇

一、二〇

三〇、二分ノ一

一、二五、二分ノ一

二四、二九

莫^モ 頂^{テイ} 三^{サン} 坵^ク
 家^カ 山^{サン} 臺^{ダイ} 臺^{ダイ} 堡^{ボウ} 子^シ 屯^{トン}
 家^カ 子^シ 堡^{ボウ} 屯^{トン}

○

一〇

一〇

一、一五

清韓露渡航案内

海子 臺 城 子 蓋 邵 小 二 榆 明 沙
 家 米 臺 林 河 崗
 平 屯 塞 子 堡 岑 臺

合 計
 海城より遼陽に至る各驛間里程

日本里町

一、五、
 〇
 七、五、
 一〇
 二〇、二分ノ一
 一
 三〇、二分ノ一
 一
 二五、二分ノ一
 一
 二五、二分ノ一
 一
 百八十二

清韓露渡航案内

土 甘 湯 湍 鞍 四 長 八 立 沙 頭 首
 河 泉 崗 山 方 佃 卦 山 河 臺 山
 堡 堡 河 子 驛 臺 堡 溝 屯 鎮 子 堡

一、
 二、五、
 二五、二分ノ一
 二五、二分ノ一
 二、五、
 一、五、
 三〇、二分ノ一
 三〇、二分ノ一
 一、
 二五、二分ノ一
 二五、二分ノ一
 一、
 一、三〇、
 百八十三

清韓露渡航案内

八里庄
遼陽

合計

營口より海城に至る各驛間里程

日本里町

小紅瓦子	桐家窩鋪	黃家鋪	黃家店	夏子臺	爾石橋子	營口
一、二五	二、一五	二、五	三、二〇	一、〇	〇	〇
二五、二分ノ一	二五、二分ノ一	二五、二分ノ一	二五、二分ノ一	二五、二分ノ一	二五、二分ノ一	二五、二分ノ一

清韓露渡航案内

下郊河
蓋平屯
皮里子廠
八里河
海城

合計

蓋平より營口に至る各驛間里程

日本里町

蓋平	海山塞	籃旗廠	二道溝
一、二五	三、一五	二、五	〇
二五、二分ノ一	二五、二分ノ一	二五、二分ノ一	二五、二分ノ一

清韓露渡航案内

營口

口

百八十六

二、三〇、二分ノ一
九、三〇、二分ノ一

合計
軸巖より營口に至る各驛間里程

日本里町

〇

三、一五、

一五、三〇、二分ノ一

四、二〇、二分ノ一

五、五、

二五、二分ノ一

一、五、

一、

王三夏大源乾湯軸
家又家石馬油
屯子屯橋池子河巖

清韓露渡航案内

營口

口

五、

三六、三〇、二分ノ一

合計
九連城より大東溝に至る各驛間里程

日本里町

〇

二、二五、二分ノ一

四、二五、二分ノ一

五、一五、二分ノ一

五、二〇、二分ノ一

一八、一五、

合計
大東溝より大孤山に至る各驛間里程

日本里町

百八十七

九連城
安車
三股流
赤魚嶺
大東溝

清韓露渡航案内

大東溝 棹木山 范家山 康家窩棚 大椅子圈 大孤山

百八十八
 四、一五、
 三、二五、二分ノ一
 三、二五、二分ノ一
 二五、二分ノ一
 六、二〇、二分ノ一
 一九、五、

合計
 大孤山より海城に至る各驛間里程

日本里町

大孤山 小孤山 折木城

一五、二五、二分ノ一
 五、

清韓露渡航案内

大孤山 藍家屯 林家坨子 張家鷄窩鋪 大潮湖窩 青堆子 子家店 小孤山

合計
 大孤山より皮子窩に至る各驛間里程
 日本里町

五、二五、二分ノ一
 二六、一五、
 一、二五、二分ノ一
 二、一〇
 二、一〇
 二、二五、二分ノ一
 一、二五、二分ノ一
 二、一五、
 二、一〇、

清韓露渡航案内

藍家店 莊河 大鄭屯 朱家牌子 坎子底 東子 藍家 藍家 大高屯 皮子窩

合計

鳳凰城より海城に至る各驛間里程

日本里町

二、三〇、二分ノ一
二、五、
二、五、
一、五、
三、
二、三〇、二分ノ一
二、二五、二分ノ一
二、

百九十

清韓露渡航案内

鳳凰城 四子 鷹家甸 水大嶺 潘家峪 柞木城 海城

合計

奉天より吉林に至る各驛間里程

日本里町

奉天 三子

一、一二、〇

百九十一

二、五、
一、六、
二、二〇、二分ノ一
九、三〇、二分ノ一
四、
五、二五、二分ノ一
四〇、九、二分ノ一

清韓露渡航案内

大 帆 清 懿 石 新 八 鐵 沙 孤 四 赫
 雞 家 水 路 山 里 里 河 榆 里 爾
 子 子 臺 廟 子 屯 莊 嶺 子 樹 堡 站

一、
 一、
 一、二、四、
 一、二、二、
 三、〇、
 一、六、
 一、二、八、
 二、四、
 三、二、四、
 八、二、四、
 五、二、四、
 二、三、〇、

清韓露渡航案内

大 伊 三 塔 老 吉
 孤 通 臺 爾
 山 州 子 河 嶺 林

○交通

四、三〇、
 二、六、
 一、二、三、四、
 三、一、二、
 二、
 一、一、八、
 五、九、一、二、

西伯利の道路は官道及び支道の別あり官道の驛には馬車
 及び橋の設けあり橋は地方により馬犬又は馴鹿を使用す
 支道の驛も車馬の通する所は必を其設あり重要なる郵便